

大和名所圖會

山邊郡 城上郡
琴下郡 宇陀郡

四

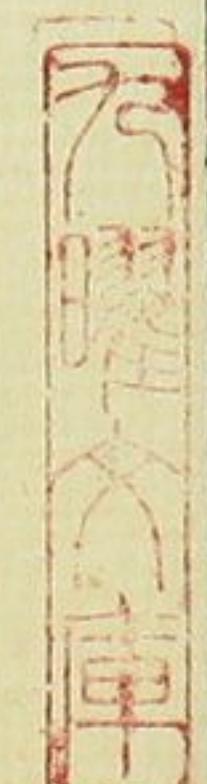
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70

| 所 | 有 | 格價 | 期 | 算 | 番 | 門 |
|---|---|----|---|---|---|-----|
| | | | | | 一 | 四九六 |

大和名所圖鑑卷之四

目錄



| | | | | | | |
|--------|-------|--------|------|------|------|-----|
| 山色里 | 在原寺 | 城下郡 | 山邊郡 | 城上郡 | 宇陀郡 | 石上 |
| 布留塚 | 廣高宮 | 手弓 | 食田墓 | 有常田 | 穴穗宮 | 千噴 |
| 水分子社 | 食田墓 | 豊日社 | 食道 | 石上布社 | 穂道 | 禮日社 |
| 内永久寺 | 石上布留社 | 下邪社 | 千噴 | 石上布社 | 千噴 | 日社 |
| 良因寺 | 布留櫻桃庵 | 布留櫻桃庵 | 食道 | 石上布社 | 食道 | 豐日社 |
| 下邪社 | 布留櫻桃庵 | 布留櫻桃庵 | 千噴 | 石上布社 | 千噴 | 日社 |
| 中水 | 二島社 | 朝日豐前縣社 | 龍王山城 | 石上布社 | 龍王山城 | 豐日社 |
| 大和大國惠社 | 布留忘水 | 朝日豐前縣社 | 山邊社 | 石上布社 | 山邊社 | 豐日社 |
| 来迎寺 | 都水冰室 | 白堤社 | 喜殿 | 石上布社 | 喜殿 | 豐日社 |
| 葉櫻 | 布留水 | 夜邪伎社 | 二階堂 | 石上布社 | 二階堂 | 豐日社 |
| 冰室 | 布留水 | 都水冰室 | 白堤社 | 石上布社 | 白堤社 | 豐日社 |

名張川
瀧井
遊部川
泊瀧
藤井
本葉宮
猪飼
跡見橋
玉坂社
岩坂井
車輪橋
右河野包
長谷山
白山社
現
比賣
笠
長勝寺
蓮華谷
玉葛舊蹟
紅葉里
東嚴
廢恩寺
懶山
樞本
恩寺
比坂川
珠城
大御輪寺
砾城
高圓
日向社
海石榴
大御輪寺
門櫓
志紀社
纏向山
校井社
志像社
金刺宮
金平山
龍谷寺
初瀧川
金平山
龍谷寺
後成卿塔
鸞
初瀧川
金平山
舒明天皇陵
道明上人墓
貫之梅
長谷寺
竹林寺
通明上人墓
二完原
糸井社
比賣
荒井
興喜
栗
福原
宮古森

名張川
瀧井
遊部川
泊瀧
藤井
本葉宮
猪飼
跡見橋
玉坂社
岩坂井
車輪橋
右河野包
長谷山
白山社
現
比賣
笠
長勝寺
蓮華谷
玉葛舊蹟
紅葉里
東嚴
廢恩寺
懶山
樞本
恩寺
比坂川
珠城
大御輪寺
砾城
高圓
日向社
海石榴
大御輪寺
門櫓
志紀社
纏向山
校井社
志像社
金刺宮
金平山
龍谷寺
初瀧川
金平山
龍谷寺
後成卿塔
鸞
初瀧川
金平山
舒明天皇陵
道明上人墓
貫之梅
長谷寺
竹林寺
通明上人墓
二完原
糸井社
比賣
荒井
興喜
栗
福原
宮古森

廬戸官

麻氣社

齊智官

恩智社

岐多社

小野穂原

香木山

御井社

室生山

神雄嶽

椿井川

小野川

吾妻聲

岡田社

伊那佐山

春日社

大藏寺

男坂

寺平

服部社

韓人池

久須美社

太和川

宇陀川

龍石神殿社

猿畠社

宇陀川

屏風嶽

圓見嶽

血原

宇陀水

美牟順比社

宇陀水

丹生社

白鳥城社

宇陀水

分社

法樂寺

朝雲社

吸上嶺

村屋社

吹上嶺

宇陀雪

漆室嶽

赤人墳

宇陀雪

龜嶽

門部社

櫛嶽

室生山

日張山

竹林山

高倉山

禁川

阿紀山

高倉山

禁川

日張山

鏡作社

刀色

勒負御井

墨坂

宇陀冰室

佛隆寺

檜牧川

曾爾川

味坂社

唯嶽

御杖社

櫻實社

都賀那木社

櫻實社

松劍主社

有獨宅

源有獨宅

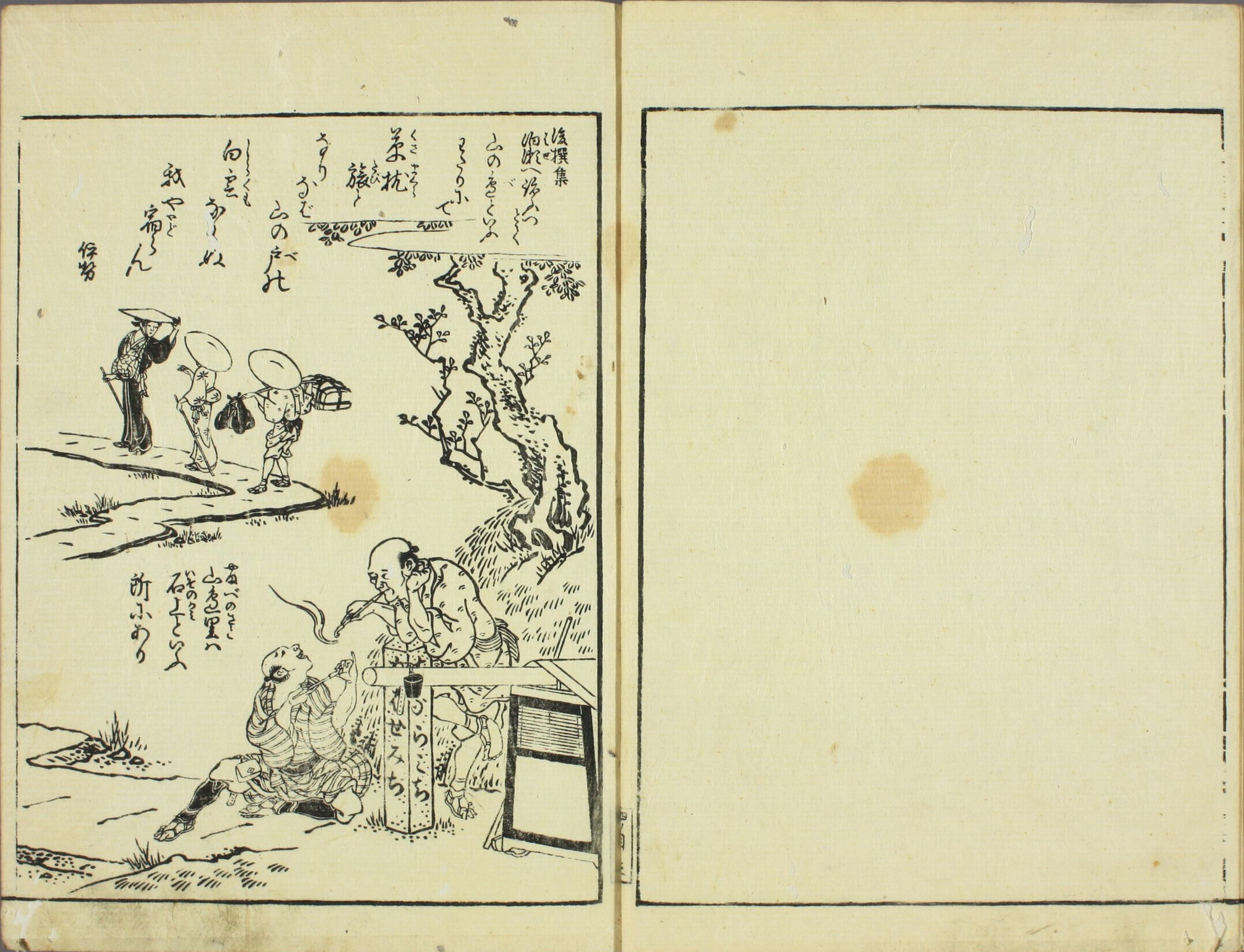
櫻實社

松劍主社

有獨宅

櫻實社

松劍主社





石上

山色郡小あり

古之神の名ひよりて宮はくもくいその神とらふことりけきな木

拾遺

新古今

續古今

日光登下わら神へいそれ神アリテトシル小花を喫アリ
喜々それと生そうちアリスアタヒタヒアスモ
石上アリトハトモヒタヒアスモトモ
能因院

石上アリトハトモヒタヒアスモトモ

能因院

新古今

續古今

祝田神社 田部村小あり 喜殿村神小あり

泊宿小ありタクシニシテアリメトス

まつてうといひされままでぞとぞく

竹ノ子に

弓手

中村東小あり龍王と號す

名手

萬葉小あり肇草^{ハタチガラ}眺めあり

食道

ヒカル

金道

万葉小あり小妹が盛くみ狂りを生跡も

アシタタリ

明玉

かくのひ小ゆくそしのひ金道れりのひ乃峯北根葉

顕季

奈良

寺小ゆくそしのひ金道れりのひ乃峯北根葉

顕季

二階堂

二階堂町本尊^{ヒヨウソン}虚空藏菩薩

天守殿

へ造當アリト初ハ大香久

中の小麦小あり称膳

天守殿

賤の子アリ

根芥が摘居アリ

聖德太子のみそらと舞ひ一トト

ひのく地とせよ分ゆべと能光傳

小ゆくそしのひ能光傳

小ゆくそしのひ能光傳

山邊神社

西井戸堂村小あり 神名帳三代實録出

長屋原

長屋村

万葉

和銅三年二月藤原宮より寧樂宮

小有

古文

白堤神社

長柄村小あり今

白堤神社白き明神と称す神名帳出

千塚

二階堂の東の山陵小岩穴小あり

朝日豊明燈神社(佐保莊村朝日觀音堂の

夜都伎神社

木本村小あり今木本明神と称す

山口神社(木村小あり今水口明神と称す)

神名帳三代實録出

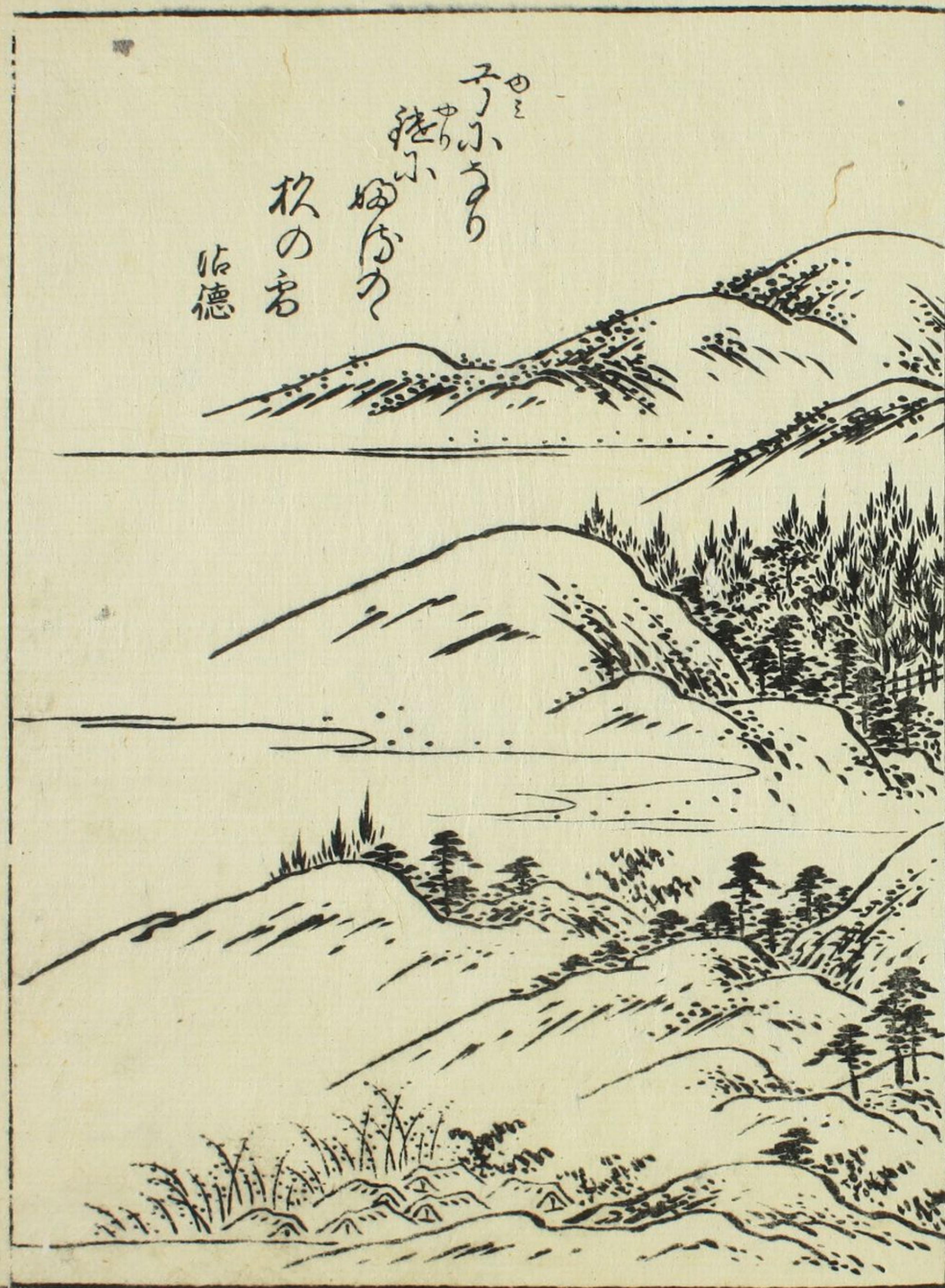
太平天皇



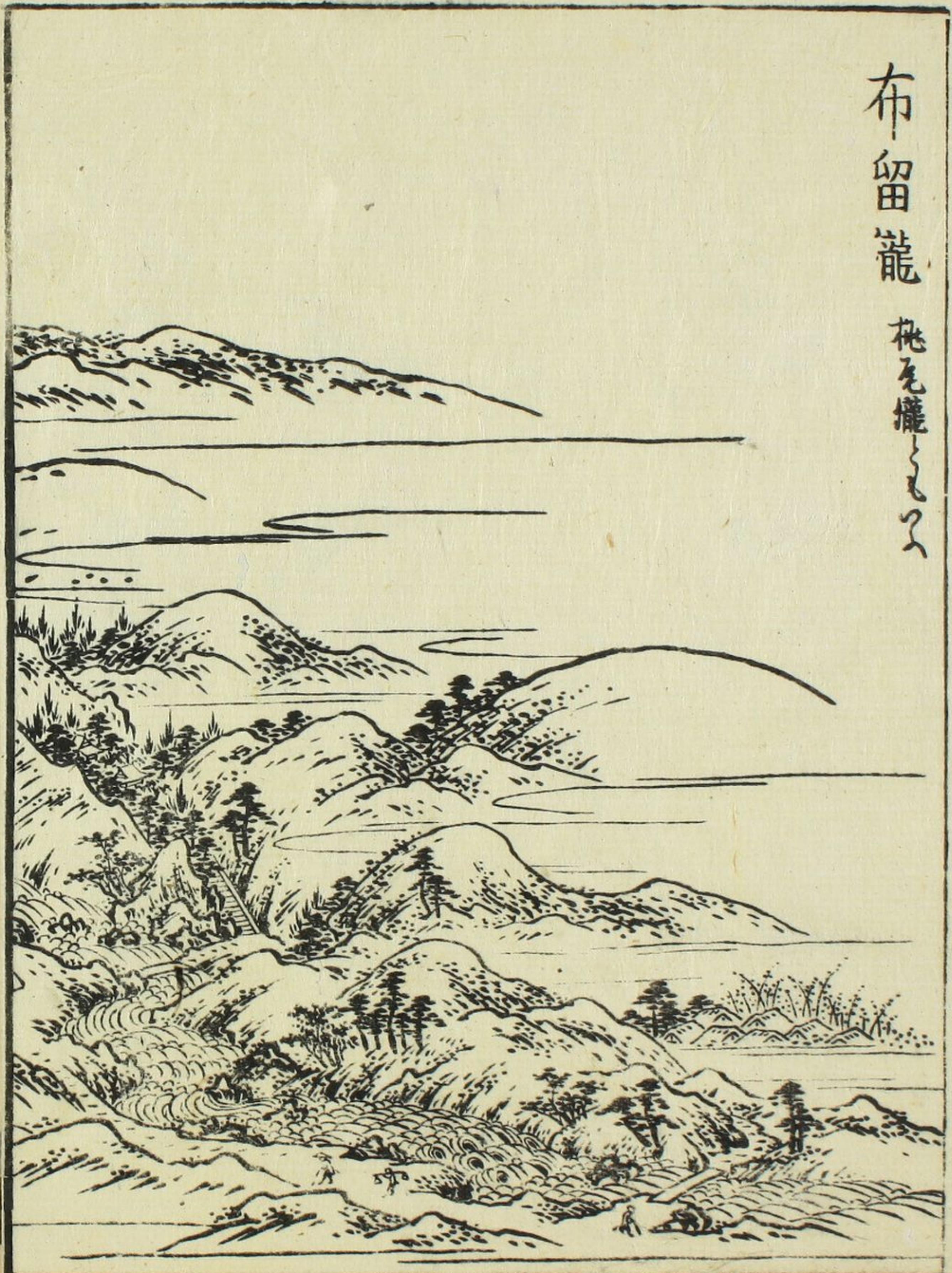
布留社



子小
少
小
少
松の君
祐徳



布留龍 桃毛櫻



豊日神社

豊井村かあり今大神と
称も三代實祿出

三島祠

三島村かあり水苔出る山裏也

布留山

布留村の東小山あり
其北と櫛尾山とす

布留山

布留村の東小山あり
其北と櫛尾山とす

石上ゆゑのふへれさくらん 花くらん時と知人ぞうれ
後拾
石上ゆゑのふへれよへば 青葉ふそれのあすへり
後拾
おの時ゑあれどや石上ゆゑじあとたふとそもん 紀貫之
千載
桃毛小り道のあれ馬場といふ所

布留野

桃毛小り道のあれ馬場といふ所

石上虎の中道中くにひだりと思へすへや 紀貫之
前卷
石上布留の小篠あわて一夜とうらふあはとへうふ 後拾
前卷
石上ゆゑのねはまきもむづくのこに放乃初風 前卷
あれも又老の友とも成小けむすくのさばーくれ聲 前卷
春雨のふるせきそこのほ草摘てとゆん 定家
前卷
石上ゆゑのねはまきもむづくのこに放乃初風 前卷
小野 石上ゆゑのねはまきもむづくのこに放乃初風
若々無ふゆるかく小野のが柏りと小ゆゑや秋オラカラン 前卷

意証

布留忘水

布留川

布留高橋

石上ゆゑの忘水あふ今さくに思ひいつとん 舞鶴傳
石上ゆゑの忘水あふ今さくに思ひいつとん 舞鶴傳

舞鶴傳

石上布留社

布留村及ひ四十村の氏神
例祭六月十五日

御鬼神社

常陸國鹿嶺の神宮と同神十握劍ゆくは一
丈當社を延喜式の石上坐布都

御名大蛇斬

も號を挙げ劍素盞烏尊出雲國つてハ岐乃
大蛇と云ひ其の尾がさりかゝ附小劍の刃をこしりて
とくその尾深刻く見ゆるを尾の中小劍あり是草薙の劍ア

て尾深岡熟田神うり蛇がさり劍を蛇の藤正と号へ石上ふ堅

日本
ス大蛇斬といひ大蛇が取とりて放すり

古語

古語

石本とりともすすく小木くさるにうなづかむ
川耳ふかやーの賤女

トコトコその尾深刻く見ゆるを尾の中小劍あり是草薙の劍ア

トコトコその尾深刻く見ゆるを尾の中小劍あり是草薙の劍ア

布次はありたりその布にすれり劍のとどありてより神と祠く
布巻の明神と号すまう松を布巻のふとあるとぞかとまう盛裏

記 裏

御鎮座へ人皇千代崇神天皇の御宇より伊香忌雄令大臣より
大社國社はさざら八十万群神はさざら附大和國山色郡石上の邑ア
シテ其子味間見令小あくそんより神武天皇より後より參齊石上
の大神と号し國家あぐら祀アタリ

神庫正殿の傍小ありけ池よがス尺の檻あり神舟アミ

神庫御小の院布にとどありて劍のとどありて外まく牛馬の
又波瀬あり神あ小護摩火源宝藏の笈二肩出づる物の
肩小うりくわいしありけ時内山永久寺桃尾山龍福寺奉嶽殿の傍
傍出づるありけ桃尾山

日初事のあけ神松アゲルてあらゆの神人いきことりせり 長方
新廟

かみよりあそひてうあんまめく時雨のあけ神松 松玉堂

定家

宮居セーその始も石上の社と人やいひさん 経家
後嵯峨院
桃尾山龍福寺布留みのまきとがま基菩薩の開基アキミヘモ加藍
嚴重アリ今頃廢て僅小石なり本堂小十一面觀音を安て傍小
阿弥陀堂十二所權現春日祠あり是鎮守の神其傍小鐘樓

銀の二千尺ともひつべ

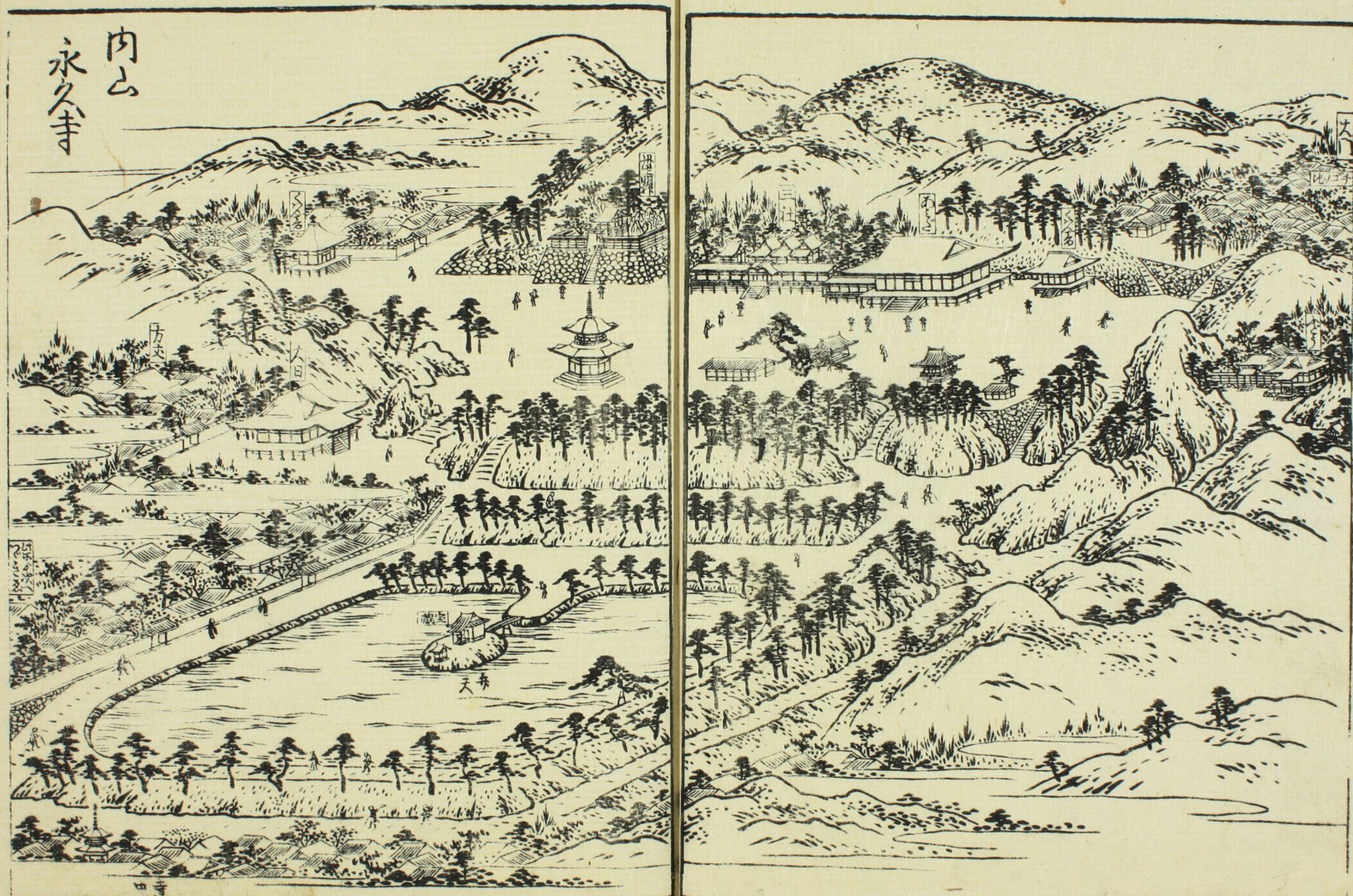
後嵯峨院

いよくアリモトモ石上する山腰つせむるにて

後嵯峨院

都介冰室氷室村あり隣村福住小日本紀出 都祁水分神社 鞠田村あり
下部神社吐山村あり 神名帳出 中川中川村あり

青葉瀧長瀬村あり 飛泉教十夫俗小雄瀧とて下流に瀧あり雌瀧とて奇勝あり



内山
永久寺

永久寺

門前



内山金剛乘院永久寺ふじ村の東にあり。金剛院の跡也。佛頭五鉢の形ごへいの小一中央山峯さうざんさんぼうあり
亮慧真言傳法の人けいがくじんげんは五鉢の形ごへいの小一中央山峯さうざんさんぼうあり
され内山と号い号せり永久年中えいきゅうねんちゆうの多創たつくりされ永久寺と名附なづけら宗首そうしゅの
真言しんごんみまく本堂ほんどうの阿弥陀佛あみだぶつと本尊ほんそんと奥院おくいんの不動明王ふどうみやう、日帝
三軀さんくくの其その一いっ觀音堂くわんいんどう千軀佛堂せんくぶつどう二層塔にそうとう大師堂だいしどう真言堂しんごんどうとも
大日如來だいにちにょらい安樂院あんらくいん額がくへ多那院たないんの表筆ひょうひん之鎮守ちちんしの社しゃ清瀧權現せいりゅうくんげん岩上
明神長尾天めいじんちやうびてん神父じんふ勸請けんじやうとス元弘年中げんこうねんちゆう藍蓋城没落らんがいじゆらくの時後醍醐天皇
志しのびのび入御いりご一經いつき遺跡いせき本堂ほんどうの乾いぬか小あり又また塔宮とうぐう
居ゐれりか其外諸堂魏ゑく子院こいん四十七坊よじゅうしほうありとある宗派しゆばい流りゆ
醍醐金剛院だいごくこんごういんの法頭ほうとう當山派とうさんばいの法頭ほうとうあり
良因寺らういんじ石上布留村いはかみふるむら一名白上寺しらかみじ又名良峰寺らうほうじ今宵藥師堂こんしょうやくしどうと云いふ
天長年中てんちやねんちゆう守法師しゆぽうし住持じゆじと其後修正遍昭へんじょうもしくに幽居ゆうきと良峰らうほうと云いふ
又素性治原そくせいじはらもしくとおせーと云いふが法源ほういんの石塔せきとうと云いふ爲ため双瓶そうびん小なり

後撰集

石上とひまふちとて日の暮れをあめくすからうゑん

ひこうろりんとくわけらん

石の上小旅宿がそれとひとむ一昔の夜が我小僧あん

小舟小町

五

世がそじく毒の夜と只一キウシのどうかしき二人稱ん

酒正遍照

相模家集

うの冬のまにあくこそふ般若布多の社のねをふとくられ

大和大國鬼社

新泉村延喜式曰大和坐人國鬼神社三座

并名神大月次

相堂新堂公文德實錄曰嘉祥三年十月從二位少卿く三代實錄曰貞觀五年

從

一位

少

卿

く近郷八村の氏神

例系四月朔日

折大和大國鬼神ハ大照大神と二神わひよしべく天皇大殿の内下す

タトの小さゆ其後崇神天皇の清寧神の燐火をもててもの

住すに安らぎ天照大神ハ豊鋤入能命ハく倭姫蓬邑ニミ破堅

神離仮建くぬづく一ノ子又日本大國鬼神汎濟名城入能命ハ成

しくゆのくらきにけ命の變からくち應てはつるやかな

を崇神天皇ハ國中あがから疾疫一死亡との半にうん

とく同七年天皇はるひがうげをかひとて小倭迹々日百襲姫命

小人物主神著りゆく告わりて小清爰小秋ハ是人物主の神なり

我見太田々根みなへく我をすくへりやかあり一トの太田々根

子命伏神主トス市穢長尾市伏倭國鬼神れ神主トヤロ

らもひらひ一トの後天下太平とぞありね

日本紀

來遠寺

多田莊村

本尊是若導大師の遺像ハ則大師もいとぞ

かひく入滅ハ十七年の後來朝あり太平宝字七年號紫もと

の浦小島もひく其地の極乐寺とし尔そもくまりたね五年の裏

大和國十市郡後井の先まに仰けり一建暦元年の乱逆

小かアムカ多田の来遠まに仰けり其の送像或時傍と塊

僧又作て木像とすり付われど瑞像不若付われど其の脣よりくすりそん

力小乃び其の異うるるの卷ひくひそむに皇か一とま死ふコト

か

名張川

伊賀うち源

春日社

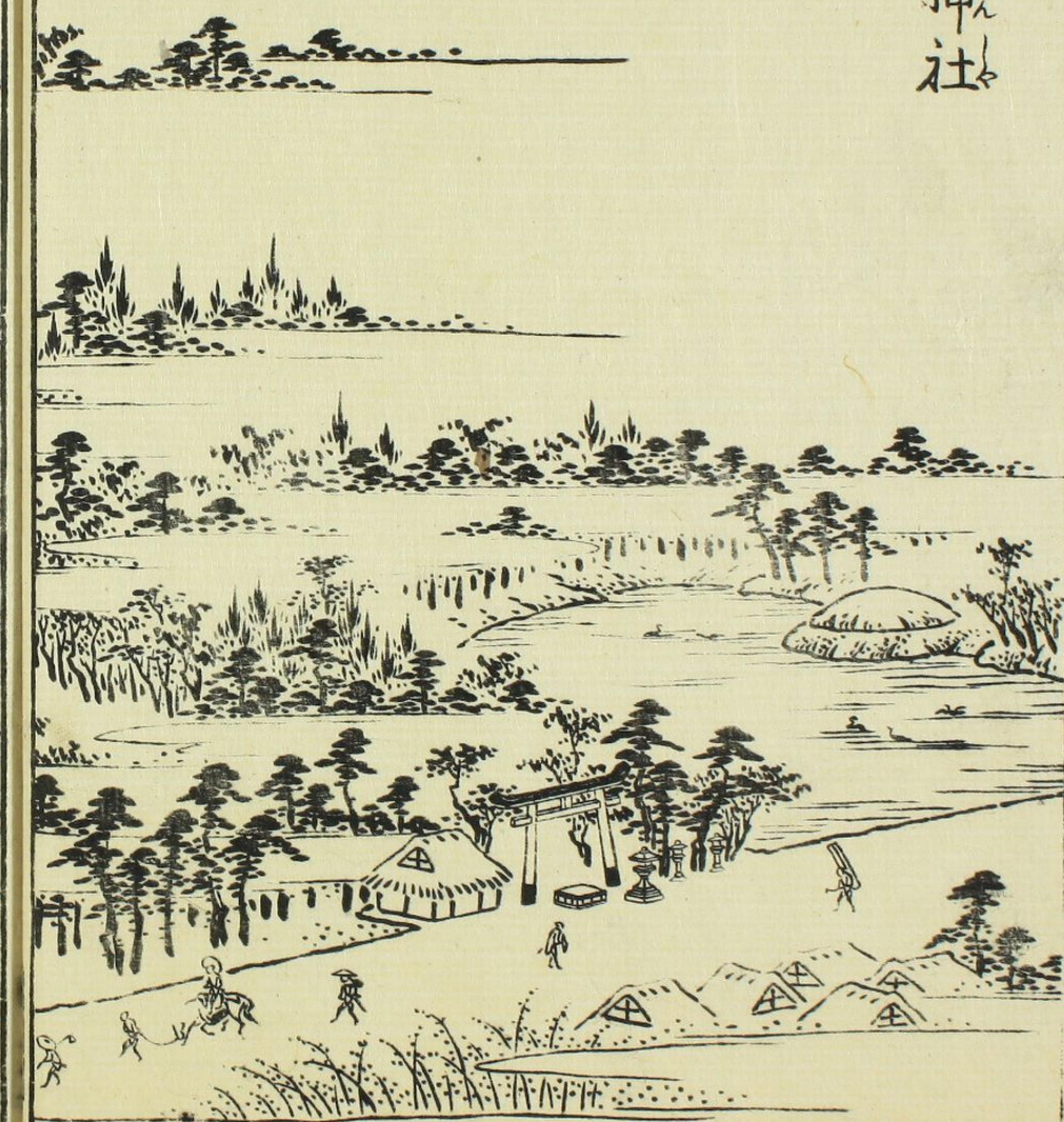
十三村の氏神

あり

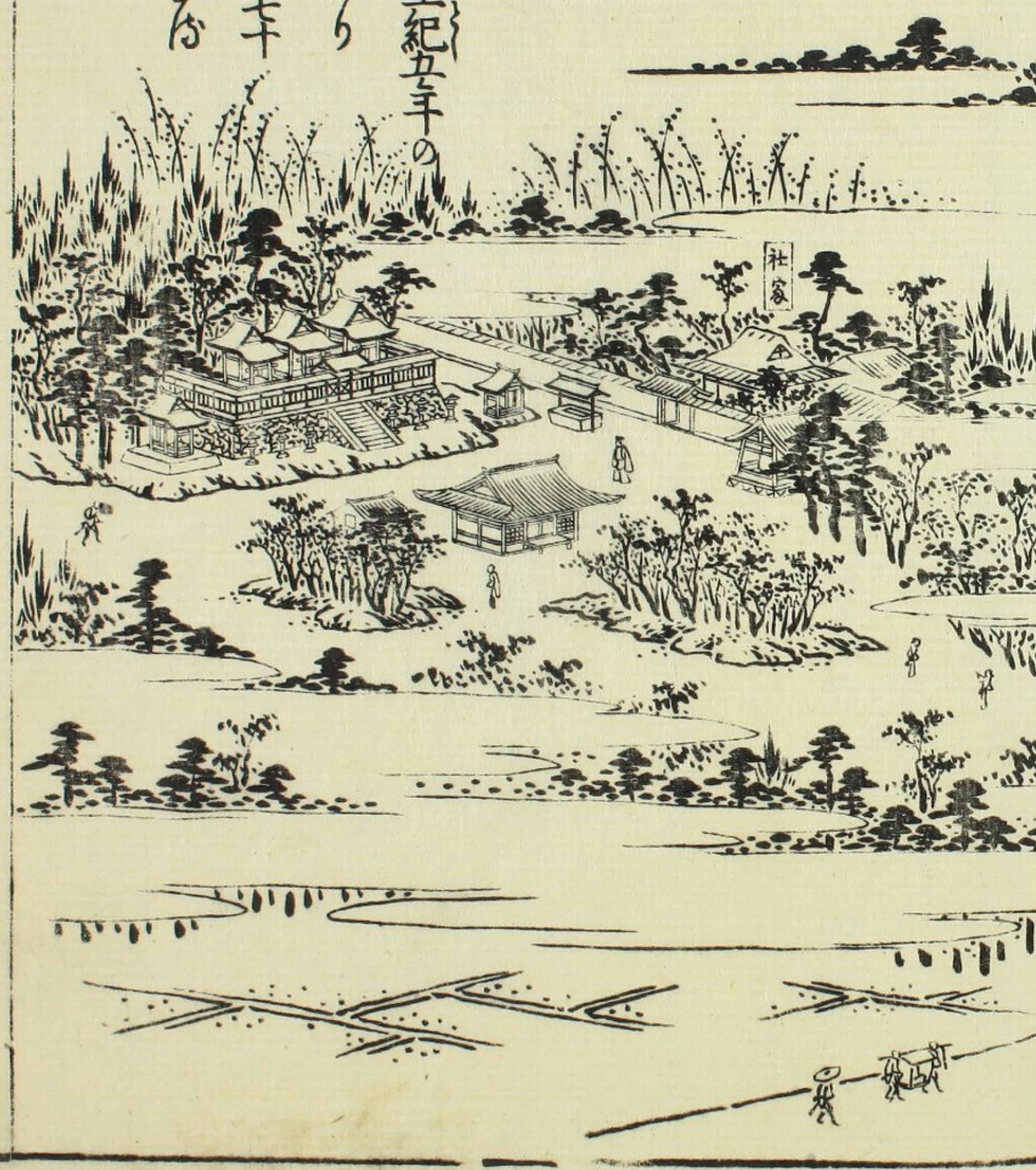
ふき御井

あり

大和神社



人皇十代
崇神天皇紀五年の
御鎮座より
今一千八百廿
余年小ある



笠間山

笠間莊小ありあり五里もからいに付賀の
通路よりハ吉寺抄出

七百首
笠間山

笠間山の里れちうなれと附る一木のそれら竹林
波多横山あり万葉集小出

神野寺

ト神跡より法性と号す一名一心院
三代實源出

波多横山

仲峯ふね山山仲峯ふね村村
波多横山あり万葉集小出神波多神社仲峯ふね村村神名帳出

名產白糞瓦

邊郡田丹波市村と雜々拾遺日榜園よひわん左政大臣道長公を
大藏冠十二代後胤兼家公の家號上東門院じゆとうもんいんの拂入之堂塔ふりいりのとうとうおほく

建立

故佛堂殿ごぶつどうでんと号す左世の威光きこうとく栄花えいは也語世經ごうせい

建立

故佛堂殿ごぶつどうでんと号す左世の威光きこうとく栄花えいは也語世經ごうせい

建立

左世の威光きこうとく栄花えいは也語世經ごうせい

金口山長岳寺 金剛身院

柳本の東弘法大師の開祖して本尊も

弘法大師の開祖して本尊も

弘法大師の開祖して本尊も

弘法大師の開祖して本尊も

弘法大師の開祖して本尊も

弘法大師の開祖して本尊も

弘法大師の開祖して本尊も

虛空藏菩薩の本堂の傍小穴師の影堂あり又寶池ありおの
不ゆきりに愛深堂の中より傍坊十所ありく西のふ頂かみ小古城乃

乃あり其蕉に千塚とつあり我死のものか瘞む所とく

穴師

兵主神社

穴師村の東弓月嵩小野

新所の神代のむく天皇

神名帳三代實錄小出

天守りのく付獲齊の續ニ面子鉢一合爲拂拂小そくせき其一が

續ハ太照大神の靈とく天懸神と拂名奉モの續ハ太照太神

の霊とく國無神と拂名奉ハ今紀伊國名草宮と崇宗光

まむち神と一つの續ハ鉢と天皇御食津神朝タの御食秋獲

日護齊 まむ今卷向の穴師の太神是

珠城

宮

穴師村の西小野

仁天皇の皇居

珠城宮の御室の宮小布されぞさくにむくの朝とそ多く後成

沈水に國さくけやうたをくの珠城の風とくともあわり 清憲公

日代

官

穴師村の小あり景行天皇紀四年十一月

日本紀

日代宮

日代宮とす

日本紀

日代宮

日代宮

日代宮

日代宮

緒環

塔

街道の東のやくらにうとうとうりむ

大己貴神

妻少もとも

大己貴神

妻少もとも

大己貴神

妻少もとも

大己貴神

大己貴神

縫

縫

大己貴神

妻少もとも

大己貴神

妻少もとも

大己貴神

妻少もとも

大己貴神

妻少もとも

大己貴神

足

足

延喜式穴師とす

卷向山とす

脚のあかーと盤てけりうりと頂

脚のあかーと盤てけりうりと頂

脚のあかーと盤てけりうりと頂

脚のあかーと盤てけりうりと頂

脚のあかーと盤てけりうりと頂

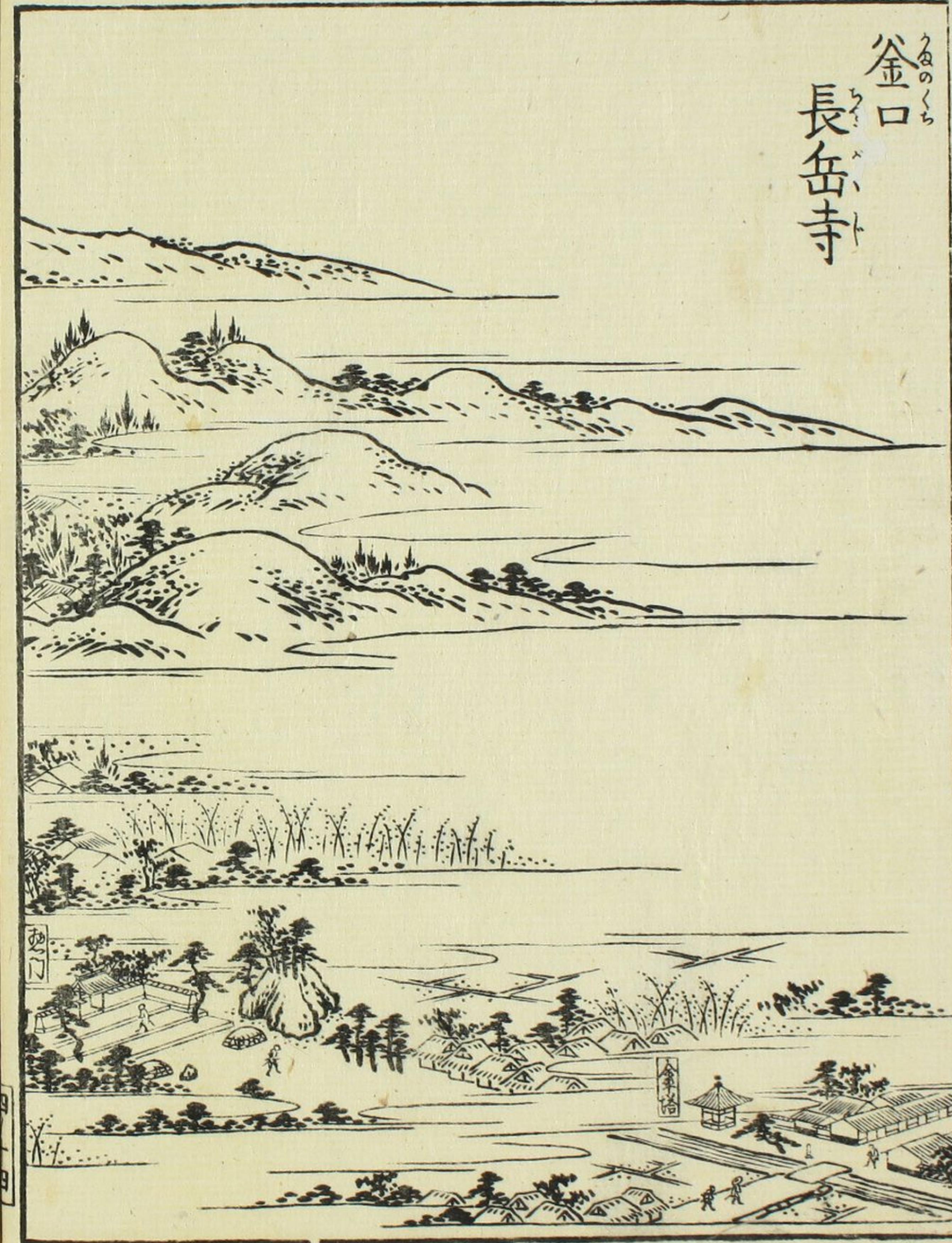
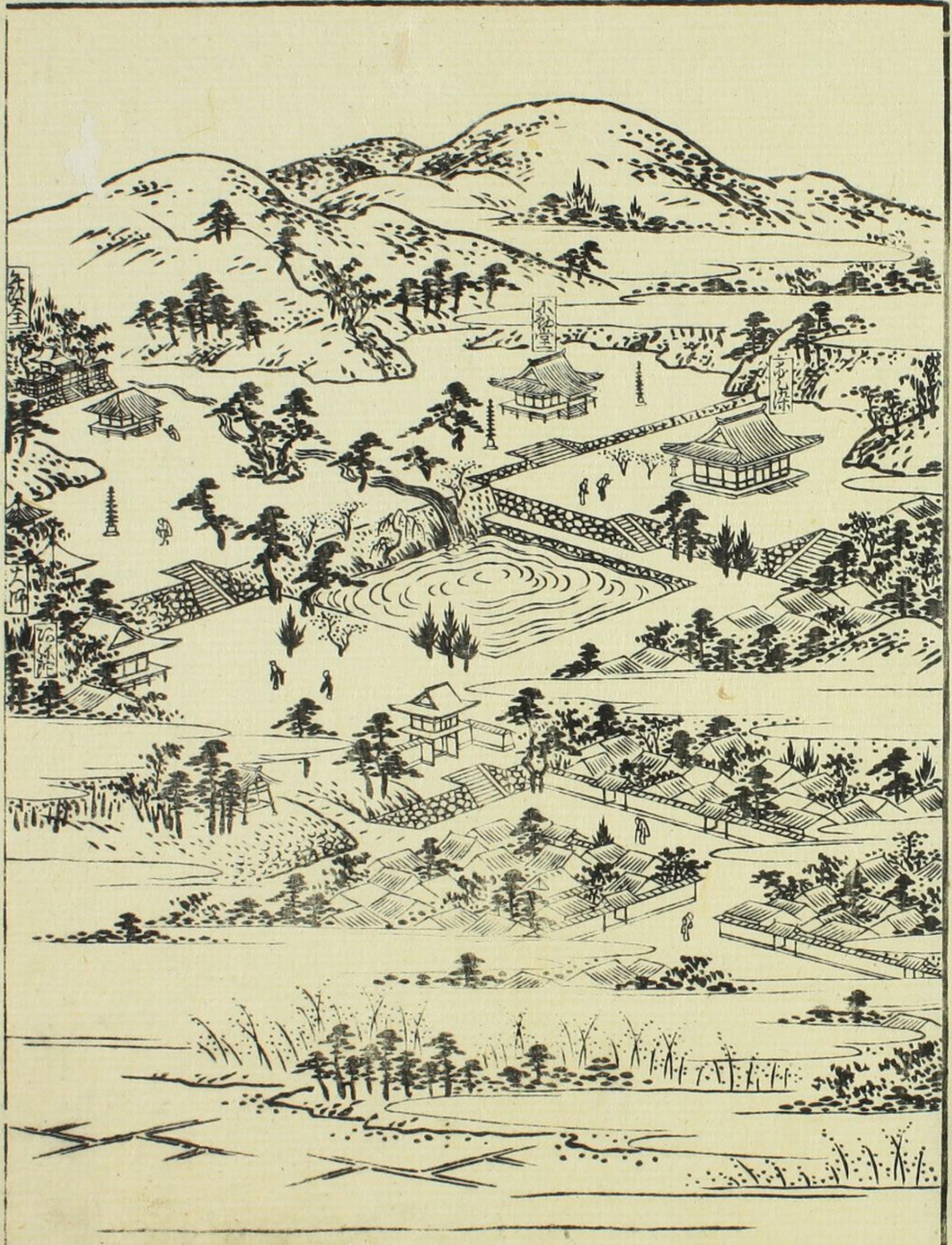
脚のあかーと盤てけりうりと頂

所よあざりうり其女もどりくよのひうり父母あやし
誰人の通ひまぐる小や女り人ゆくこくに神人ありく尾上より
かくひかへ志うれをす玉巻に糾がはけその裳とぞくして
経くひり小鑰の穴より生く節波ひが經く吉郎ふ
小入ニ諸ふにとどめうりうりその糸れ三丸のうりうり二輪ふ

とく けり 記

痛足 延喜式穴師とす 十市合系の城城あり表とく所へ極尾の脚の水上より

基後

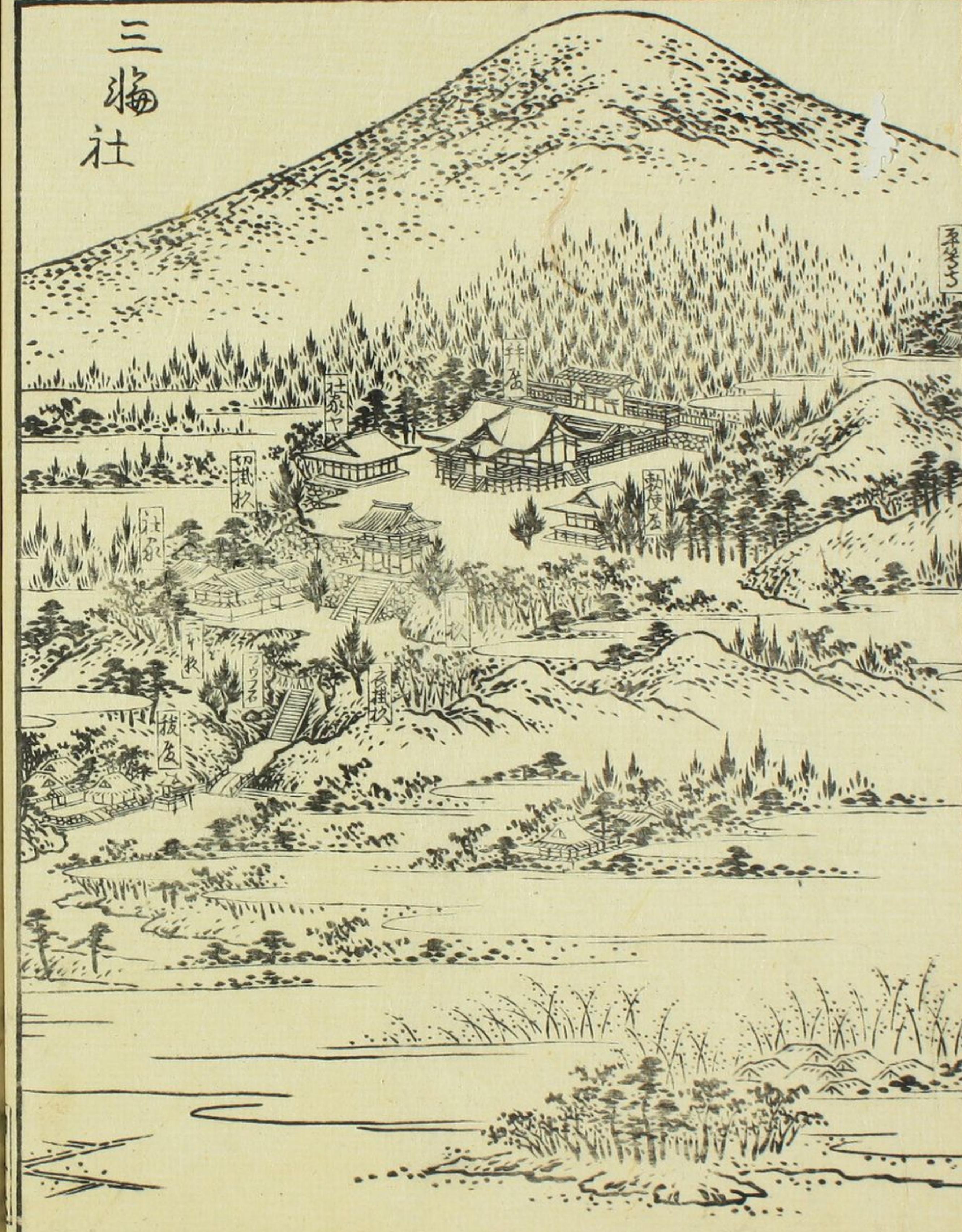


金口
長岳寺

大ニ瀬す
若宮



三瀬社



三宿一色の居

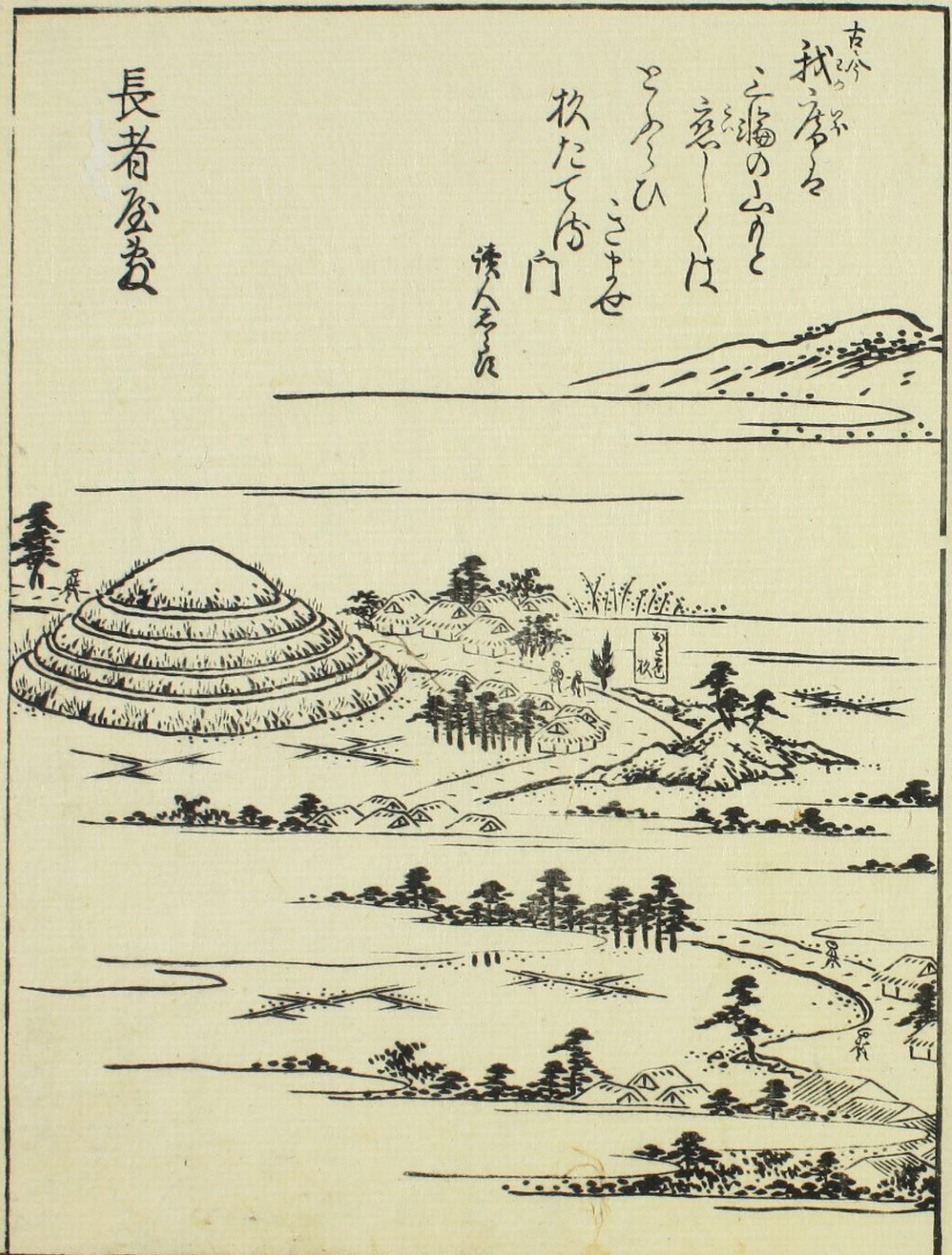
後後撰

みやめり
みぬの松む
うれや
神代の
あらん

お家



長者公造



神岳 二病山と同ひうり 神山 三頂山 神邊山

万葉集小豆山也

二病山は志もかくをうきく小もんあくさんかくらへよ
二法ほく二病山とれこりての初瀬は松原もやのうも

二病山は志もかくをうきく度人余知もむ花や咲くん

二病のふい小竹山年ねともほな人もわくとるこ

二病のふきくれ松の有うきよへんかくして者せそ

いや小ありくんも哉くや二病の枝不かにありくん

古里の三わのふとみどりとみの月れ新くともか

まくしを松れまくも月くが鹿そそご二病乃ふ本

千載後拾
新後撰 く年のくまちとくん古の二病の枝不付の通り病

木松のゆくの根又そくの松木もく候勢國奄藝郡に仕り

タク人深ふく麻が竹たる程小風吹雨落

くく朱のわり形黒くく長さ一眼と見ゆうやく如

くく朱のわり朱に年々くとも鬼うりとは鬼ふくねく

汝が射くものひ塚に年々くとも鬼うりとは鬼ふくねく

子未け塚に毛うり汝は鬼が射殺さべとくば獵師その下さりの

家來うり塚の口入へく火灰骨く焼殺へくり其後は神女が具

やうりけ男白骨ふわん生うりその下に女うせぬほうくみてるの

りどり方灰志くばく火もくせぬいよく葬しむけ女常す
わくりくらふくらふく二病のゆりを松き門どうくはり是をうりて

大和國小豆の八二病のゆりの神の社小參くけ女小あくぎなうく伏前
それを社の拂戸と周くとくへ四えきくとくは男の志の切るゆ

定家
形藝輔
素意繩

後相社 本社より二町南小あり 磐城宮 本社より三町南いあ
右代今みえうりを塔
委モモ倭姫 樓門 本社の樓門之日本造り
世紀小あり 月相 月相
右の方に木の枝あり其の裏に神社あり
櫻門の右の脇に木の枝

夜樹相 右の方に木の枝あり其の裏に神社あり
夜樹相
左の方に木の枝あり其の裏に神社あり
櫻門の右の脇に木の枝

二本相 右の方に木の枝あり其の裏に神社あり
二本相
左の方に木の枝あり其の裏に神社あり
櫻門の右の脇に木の枝

駒留石 一株の寶永年中大風の時
駒留石
出仕あり下馬石あり

綱掛松 每年正月九日満津の綱
綱掛松
と掛け神事あり

御新橋 建立たり
御新橋
武市原長者の板戸社あり

鞍馬 每年正月十一日夜神事あり
鞍馬
出仕あり下馬石あり

旗建芝 每年正月十日小五穀成就の
旗建芝
旗七本えあり

惠義須社 二輪の町小あり毎歲正月
惠義須社
六日小初市あり

渕櫛 もく長谷川に訴に流るゝ時渕
渕櫛
ありゆふ名づくむすり

赤坂處 每年六月晦日社人は訴にゆく夏越のまゝひわら
赤坂處
約つうね交野田とく川を小あり

向にあり若宮社 二の鳥居より町小小あり田根子の今
向にあり若宮社
大神大物主とあり今ハふ

御小神通 おもての額あり黙一等
御小神通
大神大物主とあり今ハふ

三輪社久代 大鳥居の額
三輪社久代

神代の文字と云々



長三尺一寸

卷之四十一

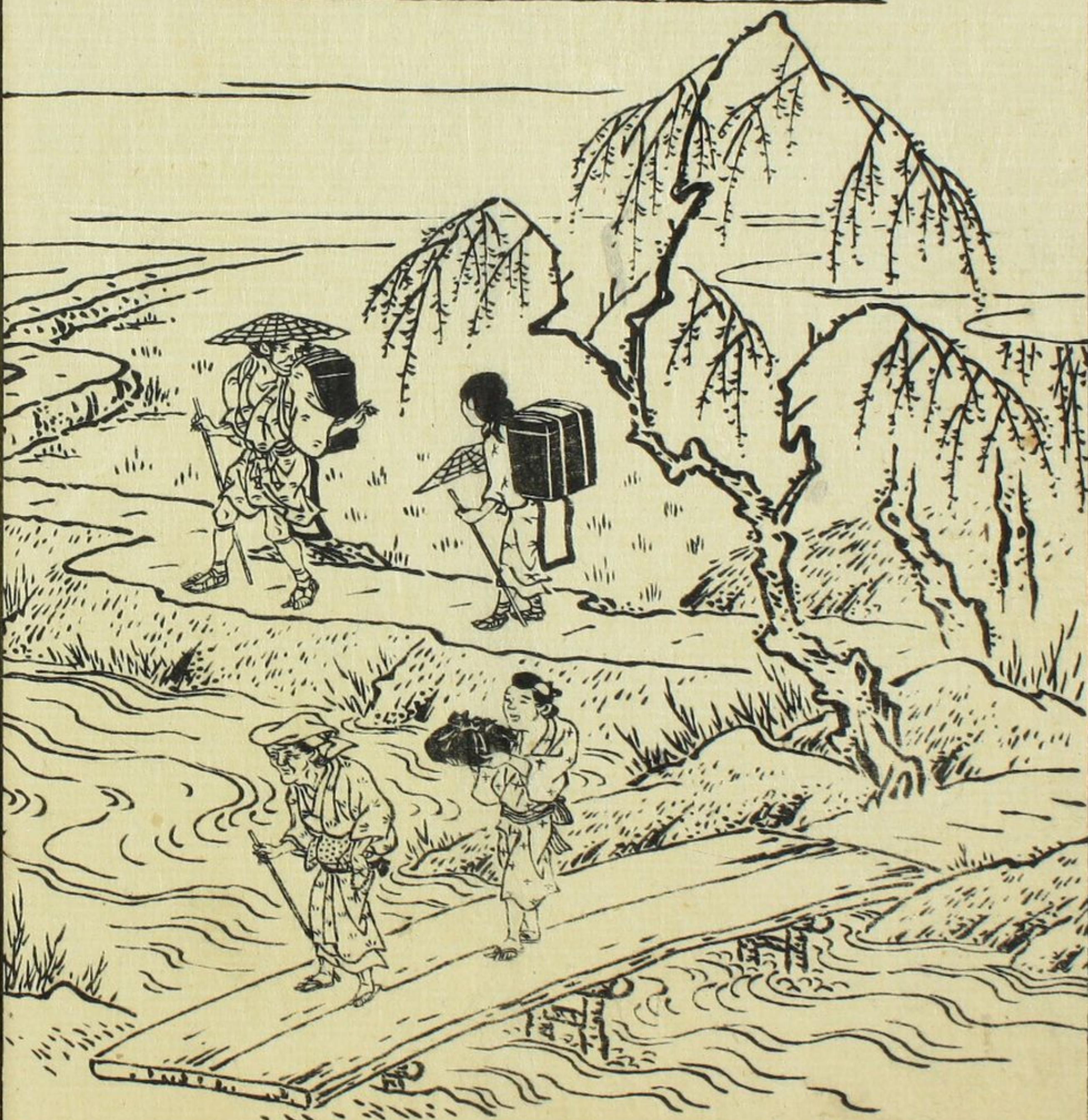
日向社 二輪の嶺小あり今高官と称し 狹井溪 水源を二輪より狭井寺の
日向社
神名帳三代實入縁等小出
溪小入 狹井坐大神 荒魂神社 二輪社の北狭井川の南にあり今ハ
狹井坐大神
神名帳に出
荒魂神社
花鎮と稱と神名帳小出
珠城山 繼向山の西に小き孤山
珠城山
纏向山の西に小き孤山
里人のつて岩経の道トトコタナヒニのトハ吉ナリトナリ 實伊

玄賓庵

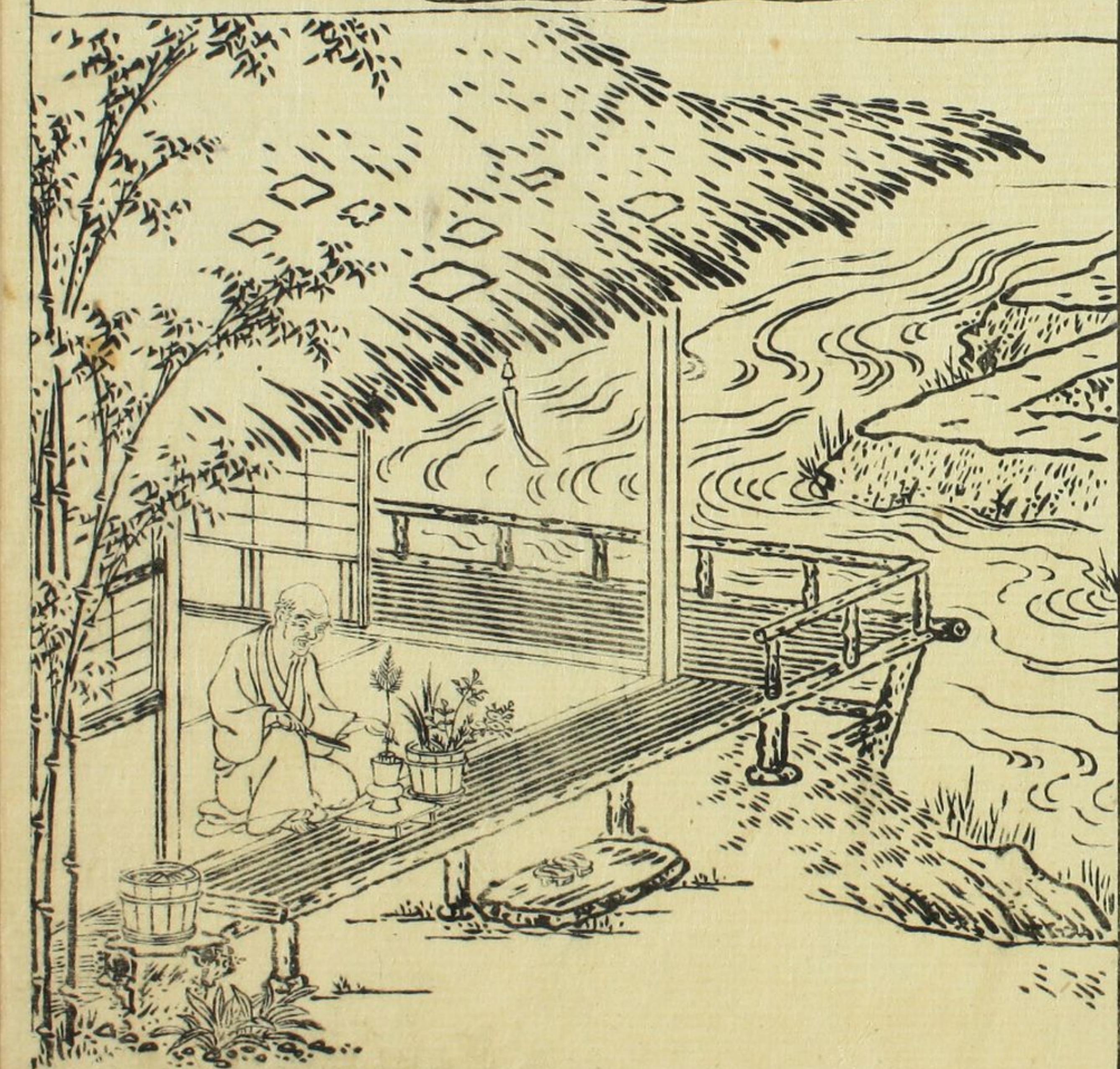
齊公集曰あゝの帝
御時大僧都にふ
かひなたは算
とく達了

シ梅の清九
かうれ小
さくらて
夜の神も又
行さ

玄賓傍都



飢食松花渴飲泉
偶從山後到山前
陽坡軟草厚如織
因與鹿麋相伴眠
されハ唐の錢起
詩より其作也



纏向山

三輪山の東北山あり一名穴師山もしく和お禪足山の所小河へより峯伏

子月嶺とひく南伏檜原山とす門へ東を初瀬山に通り西へ珠城山と

纏向溪

一名穴研川とひく水深と纏向山よりかうねく大師初利过村

等々

等々伏蓋く大豆越と云城下郡小至り初瀬川入

檜原

纏向山の南

ノ

卷向坐若御魂神社

神名張三代實家小出

纏向山

纏向山の北卷向の檜原山あり

生葉

生葉山の北

向の檜原山小山ともまき庵とて一里ひきふはしけらやも人丸

玄葉

玄葉山の北

向の檜原山の生葉山也そり二病の檜原山全

拾葉

拾葉山の北

向の生葉山也そり日教院の檜原山也

元輔

元輔山の北

向の生葉山也そり日教院の檜原山也

家持

家持山の北

向の生葉山也そり日教院の檜原山也

好忠

好忠山の北

向の生葉山也そり日教院の檜原山也

基後

基後山の北

向の生葉山也そり日教院の檜原山也

後成

後成山の北

向の生葉山也そり日教院の檜原山也

僧正公朝

僧正公朝山の北

向の生葉山也そり日教院の檜原山也

後成

後成山の北

向の生葉山也そり日教院の檜原山也

玄賓菴の舊趾

平社

十町をうらみ、日下社より北町まで東にあり、店の下廻のあら小あり。

みく人珍稀あり、嘗て玄賓、傍都ありて、常夜と月と共小清風。

枕み風と月と共小清風。

世の塵埃に染るのみ。

解脫の室門にいたり、拝仰者多くて

釋書

院の事、了然者多くて、傍都も姓弓削氏河内國の

院の事、了然者多くて、傍都も姓弓削氏河内國の

院の事、了然者多くて、傍都も姓弓削氏河内國の

院の事、了然者多くて、傍都も姓弓削氏河内國の

院の事、了然者多くて、傍都も姓弓削氏河内國の

院の事、了然者多くて、傍都も姓弓削氏河内國の

院の事、了然者多くて、傍都も姓弓削氏河内國の

發心集

三輪山

三輪山の南麓尾根、長谷川が流れり

木本
一、三輪山崎夕晴、村の佐野、定家

倭法記曰、三輪の町は、山谷の底に、海の尾崎あり。あれが

三輪山崎といへり。又佐野の岡とよばれ、紀伊國佐野の岡とよばれ、

源氏物語小暮卒將、小暮の子、御前、阿波の、おひの

やまとに大ねいとおのびく、ちくちくして、かく奈内いもを絞り、と

さくなくさの、わざり小暮もあり、すくにふとこどもひくこと

びくすのころもつゝと小居りて

新後撰

月、小り佐の、つるの林の夜を宿ありとて、まゆやせん、集國助

新拾

宿もすれきの、わざりなきの、やねとて、もの、と金玉雨の、ほ、家長、

千首

時を佐野の、ほり、ふと、と圓、金玉、金石と、傳、人師兼



海柘榴市 金屋村より町となりあはり 深氏玉菖卷云誠かくあり
されどあわせ玉の君とて川せとすんまつまほりはど
つらといふ小日とてその財をうりにいげんちもせくいこれ
タヘ日くれりといそたもく耳をあつてのくもあくわいで
いそなせに中くふとんあもくーくて 略

枕まふ云洗をひち大和アサヒある中に初瀬ふやつる人うきに
そこ小とてタリタリ親者のはげあるこそあんんことより
能因哥枕云海柘榴市はをとの市ともいへ 海柘榴云洗を
本市とて玉蝶アラカタの後アシタをすすり海柘榴市と別所なり
林逸抄云初瀬アラカタをもつてひらふりて拂ハラフのゆふと公用意
をもつてあくら小右記曰正暦元年九月八日長谷寺ナガハセイに
の附核市小つづりく拂明燈ハラハラ弘土器ヒヨウチキふどくの拂堂ハラドウにすくして
圓通伏被ハラハラ拂明万燈ハラハラクレハセカヒト

紫アメニシとてさざりの伏核市ハラハラのやせのちよと小あつてみやれ
日 海柘榴市れ半僧ハーハツ小ハラハラむとひハラハラ故ハラハラとがくくちも

志紀御縣坐神社 金屋村アマヤマあり志貴宮と称を

神名帳及び三代實錄ミツダ出

磯城鈴金刺宮 金屋村の西南初瀬川の南アマヤマあり鈴明天皇都次磯城アマヤマ
玉林抄曰今敷島アマヤマ一郷の山あり金刺宮へ向に竹原あり其内アマヤマ小祠
あり是鈴明天皇の内裏アマヤマのねすりとて今田畠アマヤマとアマヤマ名
瑞離官アマヤマ鈴明天皇磯城鈴金刺宮アマヤマ八雲抄曰大和國アマヤマと云
拝人皇三十代鈴明天皇紀元年七月小都次倭國磯城郡磯城

拂アマヤマ小都次アマヤマ一アマヤマ同拂宇十三年始アマヤマ佛法日生アマヤマ

世尊滅後一千五百一年とり

月經アマヤマ志坐後アマヤマ倭國アマヤマとて小都次アマヤマ拂はざくあれ

大和アマヤマも志見アマヤマの宮アマヤマとてが音アマヤマいとアマヤマ事アマヤマとてん

志坐後アマヤマ二輪アマヤマの核アマヤマも方代アマヤマの君アマヤマかくと折アマヤマそらアマヤマえん 家譜

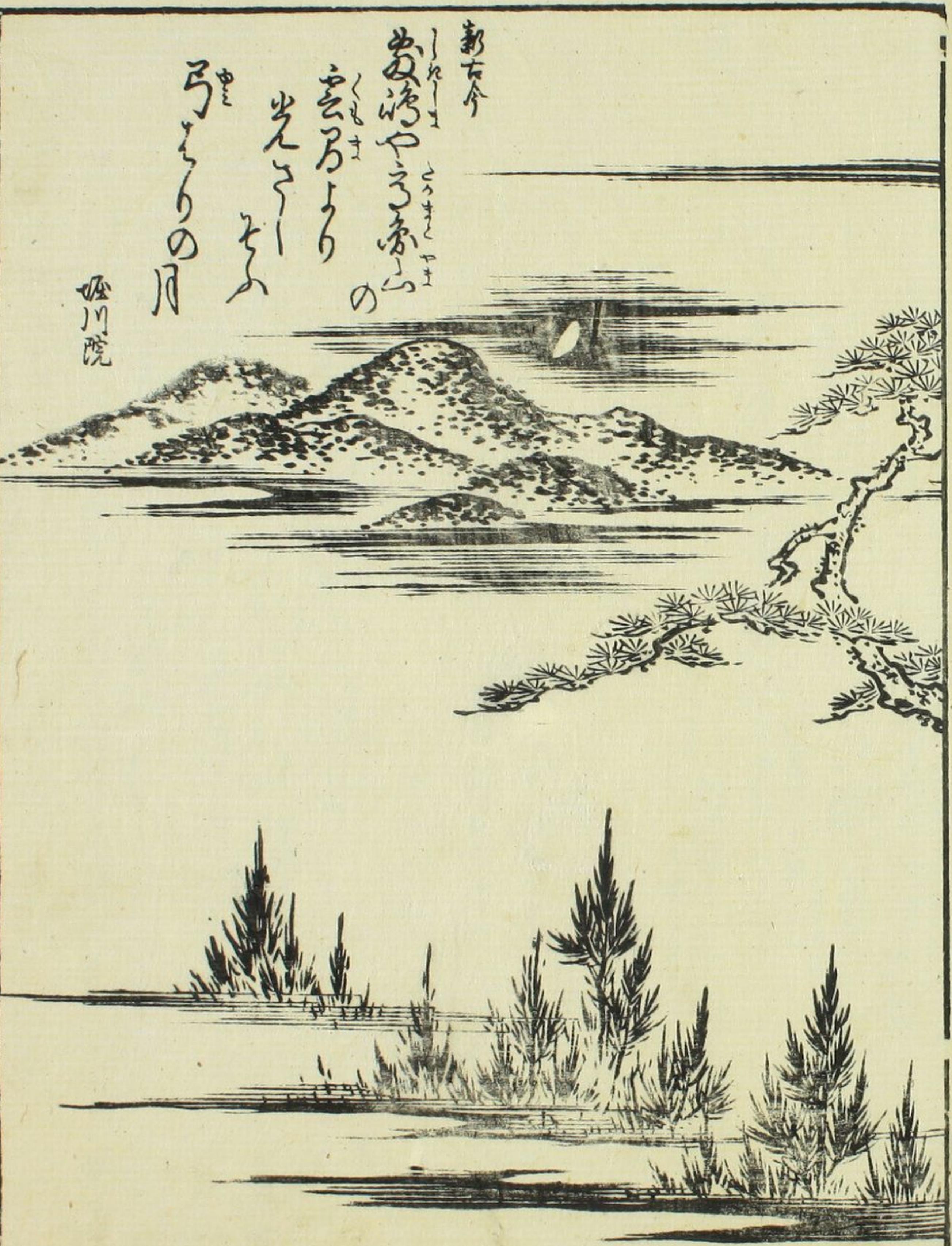
磯城瑞離官アマヤマ三輪村の東志紀 社の西アマヤマあり 崇神天皇二年小都アマヤマ瑞離官アマヤマと

出

新古今
かくはやうかふの
くもうとく
せんざい
そひ

弓よりの月

松川院



儀城嶋高圓山 三浦勝の興赤尾の東
龍谷村小あり

續後撰

左荒落や高圓山の枯風小くりうた寄り月かけ

唐金

宗像神社 神名帳小及び三代實錄小出

鳥見丘

外山村の上東の方にあり是より宇陀郡萩原村に至り古より人多く
銳速日尊河内國の上嶺峯より大和國を見の自此に遷坐し昂られ

跡見橋

恩坂川に跨る

恩坂山恩坂村の東

恩坂川

恩坂赤尾外山川に接する

川合ノ至ア

寺川小入

舒明天皇陵

恩坂村の上より陵圖考曰舒明帝の陵字段々塚と云

田村皇女墓

敏達天皇の皇女様御姫皇女延喜式出

鏡女王墓

舒明天皇の陵城内小あり

恩坂坐生根神社

恩坂村小あり神名帳及二代實錄小出

王列神社

恩坂寺材小あり

廢慈恩寺

慈恩寺材小あり龍谷寺

龍谷寺

龍谷村小あり泊瀬朝倉宮

泊瀬

朝倉宮黒崎岩坂二村同

雄

田名天皇有司に命

壇

泊瀬朝倉宮に設け天皇御位不昂

カヒク八年以ヒナリタニ

世紀儀城嚴樞之本とも葛木室書

岩坂井

岩坂村小あり一村皆白川出雲の二村の

嚴樞本

白川出雲の二村の

人皇十代崇神

天武天皇白鳳八年帝辛泊瀬

真迹鷦鷯上

秉田神社

白川村轟崖の上小あり今白山社と称す

金平山

白木村上方にあり高勢高く巣へ

衆山

山の上に出坂路曲盤

轟崖

吉澤村の上方小ありと中に柏樹多く秋の末爛漫の時蜀錦と翻ふ也

西海が臨む

吉澤村の上方小ありと中に柏樹多く秋の末爛漫の時蜀錦と翻ふ也

吉澤

吉澤村の上に出坂路曲盤

猪食

吉澤村の上方小ありと中に柏樹多く秋の末爛漫の時蜀錦と翻ふ也

持統紀九年十月菴田吉澤小幸

其辭と浪芝脚と云

吉澤

吉澤村の上に出坂路曲盤

吾門之流茅々就吉魚張能浪柴乃野之黄葉散良新

日本紀曰

車の崖へいかかぬへくおそらへく

上

天武天皇白鳳八年帝辛泊瀬

真迹鷦鷯上

秉田神社

白川村轟崖の上小あり今白山社と称す

金平山

白木村上方にあり高勢高く巣へ

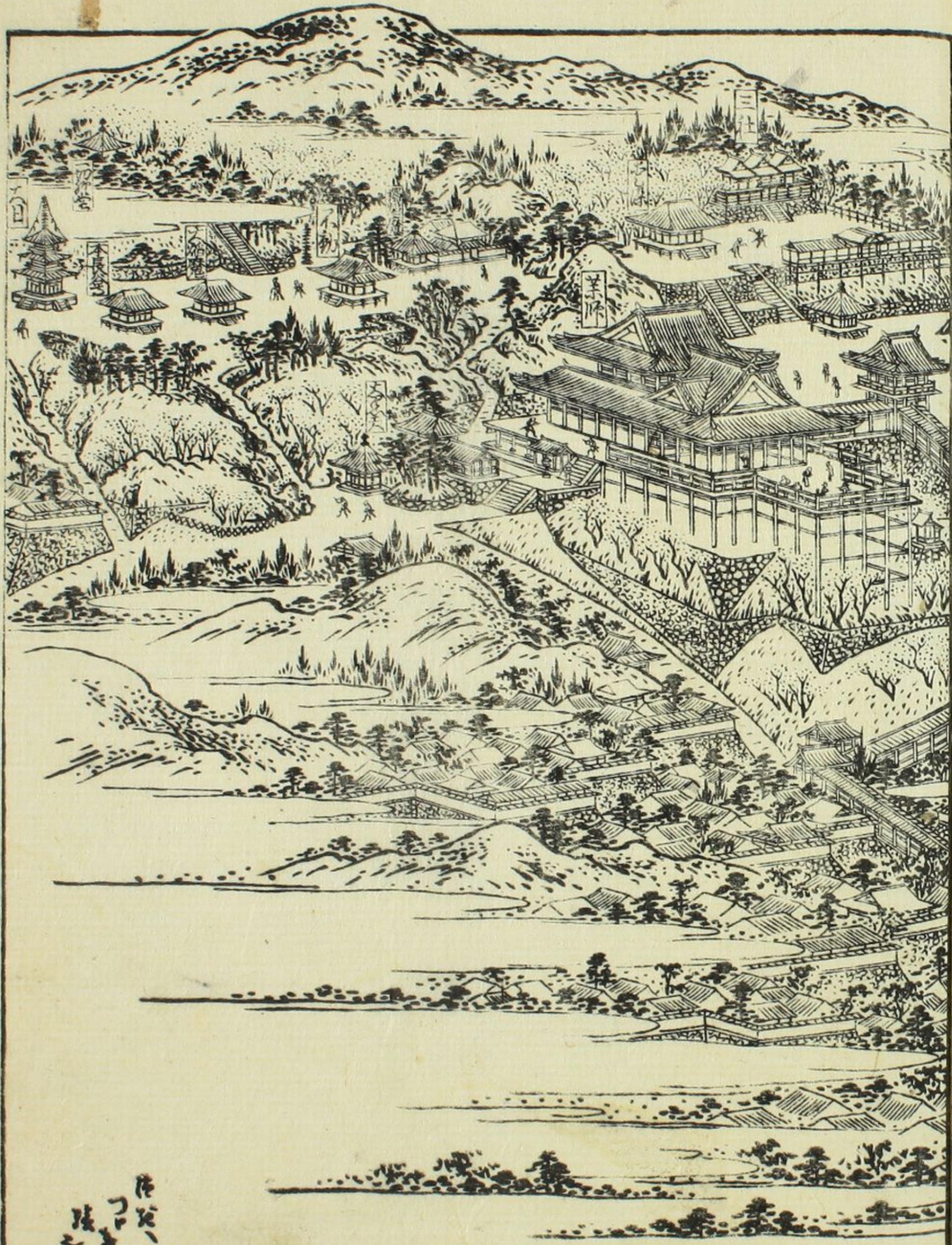
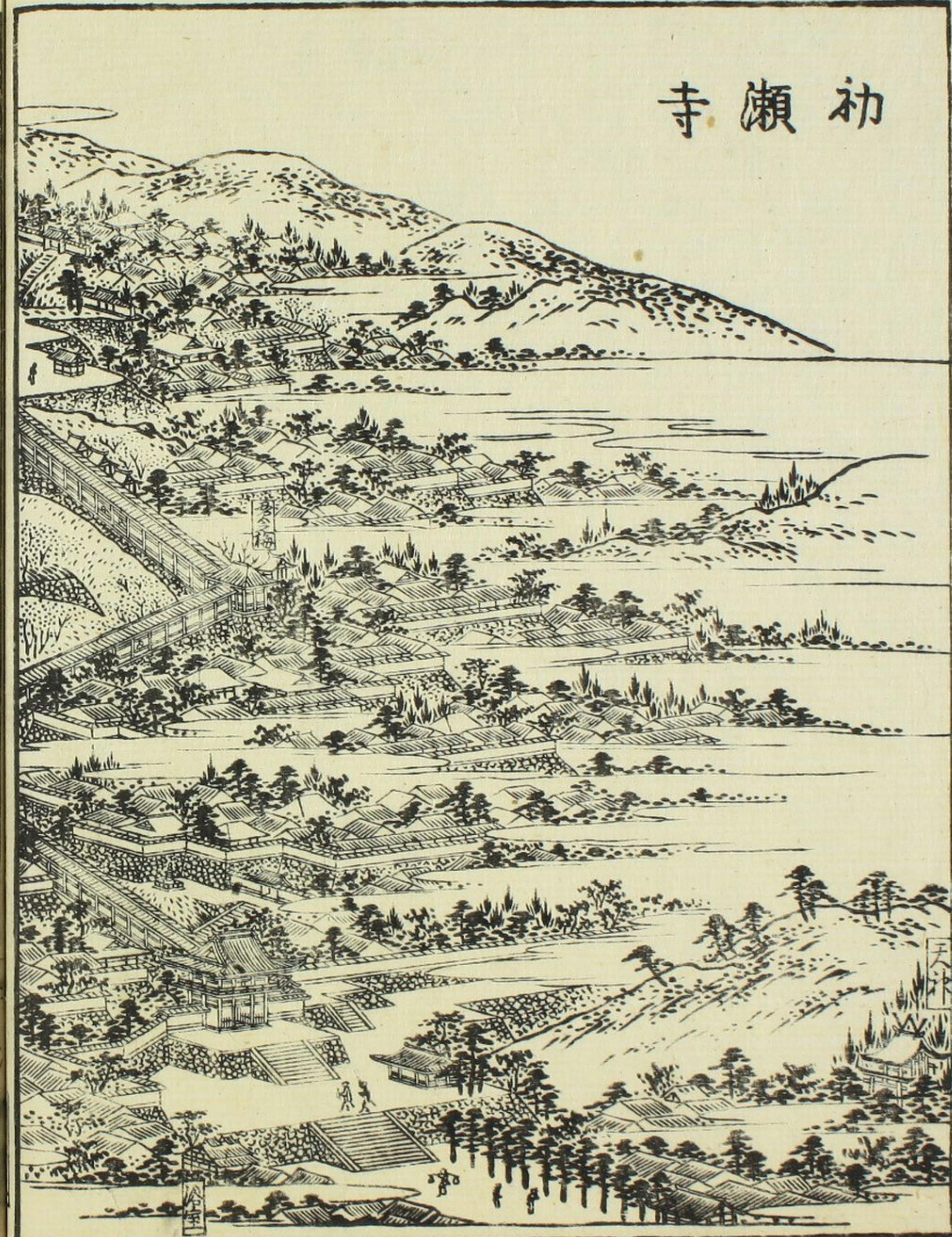
衆山

山の上に出坂路曲盤

吉澤

吉澤村の上に出坂路曲盤

初瀬寺



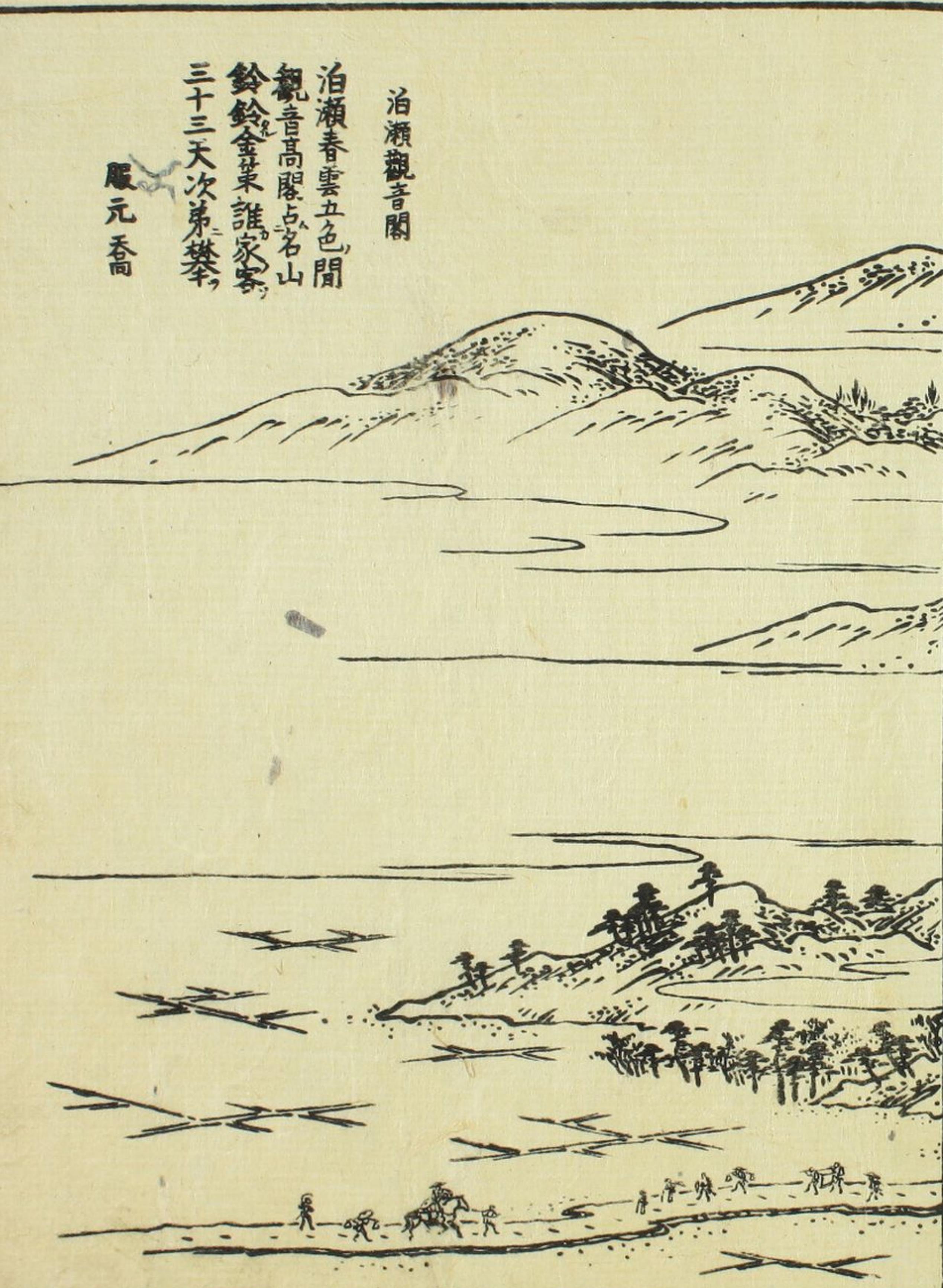
初瀨鳥居



泊瀬觀音閣

泊瀬春雲立色間
觀音高閣占名山
鈴鈴金葉誰家客
三十三天次第攀

服元喬



泊瀬

初瀬村の上小あり嶺から谷幽々く
ふに駿蹊を故小隱口の初瀬と呼ぶ

ハ西浦方葉お云海方葉舟泊瀬方葉ひとり

隱口の泊瀬がとちりと小うちるおみづれあらじともやま
日 隱口の泊瀬のふくふりとよひもと妹よかもあん 人鬼
日 隱口のそ泊瀬方葉とまれのがへん道方葉はゆり
日 隱口の泊瀬とまつぼあさと石とくらもうせそゑふる

日 隱口の長谷小國に夜延爲承天皇す與奥座方葉

詞林採葉方葉お云隱口隱口隱口隱口方葉達古訓かくの如き區あり
其中小かくかく字の訓あるゆ方葉小をそのいそれありあくしりた
文小相叶方葉へばみうごくらくの字底方葉よつとくをこうしきに
混ざる方葉所詮方葉所方葉の下り入方葉奥方葉うた故小竈口の初瀬方葉

うかとのと大初瀬方葉小初瀬方葉もあり

方葉

君方葉代方葉を大方葉せ後の百姓被方葉むくもはくす方葉うか

事之方葉小初瀬方葉の岩本方葉をのりて方葉小思方葉あかされ
日 海方葉小船泊瀬方葉のふくろおれ漸方葉くこひー衣方葉とくそす
詞林採葉方葉お云海方葉舟初瀬方葉舟とむりとりへ詞へ迎來方葉の奇方葉
あほくらみどりとくらふに旅方葉

集葉方葉十月方葉うち方葉小く方葉さ方葉ま方葉りやり方葉り方葉る方葉曉方葉東方葉の方葉くらが僕方葉う

金葉

泊瀬方葉お云花方葉の咲方葉みづ方葉小弟方葉とぞり少方葉年方葉だ立方葉き 公任

詞葉

泊瀬方葉お云花方葉の咲方葉みづ方葉小弟方葉とぞり少方葉年方葉だ立方葉き

千葉

泊瀬方葉お云花方葉の咲方葉みづ方葉小弟方葉とぞり少方葉年方葉だ立方葉き

新葉

泊瀬方葉お云花方葉の咲方葉みづ方葉小弟方葉とぞり少方葉年方葉だ立方葉き

家

後葉

紅の

うらや花櫻

朝日

小初瀬の

家津

うのくと



泊瀬川

本郡小支笠村大野和田村から二流合初出玉黒崎

江堤小山城下郡入

古木

日 初瀬川古川の下平五松年久くてもまん平を秋 僕人多度
日 泊瀬川宿セラウ獨らん葉小徑久くれ秋者とおり人也
日 痴一木秋や序も初瀬川の松の葉とけ 有家

石も新初瀬の川れ波枕もくもくのれふけバ 錦李春
後撰 沈後撰 沈女白ゆ花もちもこす氷にせきらふ川のみ 後不接
日 突きあさこ志もすく川の下のぐりよとくれ松 寂蓮
モ葉 初瀬川アソクモモのうくらを波ノ二木の松 後成
モ葉 いわせ川下の松小まつねくめりひもく小嵐をぞくく 美経

日 初瀬川井でこそ波の岩の上とのれくめく人並面 後赤松
源氏拾き あま小舟初せのを折そくかくに揚のうれれをく波 家達
日 初瀬川岩アソクモモのうくらを水のうれくアモモめく 泊

後撰

度ホ世

六帖 は斯うり

日 海寧小舟をあせの跡を小瀬君れをれかく思リテ衣着をする 赤人
御集 かくくくれ泊瀬のよれふくふりとよの雪と妹もあん 黒人

本葉宮 本葉宮藻塩某是初瀬の名より或曰お葉のふと
親王 富貴の事ありられ三十卷の神社の

紅葉里

口づるみくらみ初瀬の名より或曰お葉のふと
格王 からもくのふとや一生あへば後考本葉院

わのうりいでぞ峰郭をね葉のふあくのりのゆ人 美経

鶯

木木 藤塩某大和國

鍋

倉山 沈月奇枕に初瀬と云

家集

まうてきもとすうりこかくへ鍋倉山の事ありうり

相模



古河野毛木松

長尾氏曰二本杉の本堂の東に下松の寮にて小なり

萬葉
古今雜錄
もかくは松也や多ひなんらのをより植せのまわる
ちの川の松の根の枝無事無秋也とてそのひも二本の松

姓氏也皆も方事
ももうくて葉少すの根のうちの松小を有もしゆう二本の松

日
の川の松れりとどらきわねともうふへゆうそくとぞる

後撰

繁葉也
繁葉也すとまくしなどよ初瀬川右の跡毛のよとキヤ乃松

頃往密劫云初瀬川の古い所毛三本の松そりなぐにとむくつうりけも音音先近代の達者へ初瀬ふたりてむくねくむくけり方今トヒトヒセ川とよびつゝ

玉葛舊跡

長尾氏曰長谷寺の川東に玉うけしの石碑とく尼の庵れを小立體又五丈の所の庵れ南公洞倉延内とく

又五丈の所の庵れ南公洞倉延内とく

後成塔 定家塔

右の跡邊のよ一ト北にあり隅ある石ハ後成塔

長谷山口坐神社

初瀬村小あり今手力雄神祠と称也初瀬寺記小

泊瀬齊宮

初瀬氣波坂の下

天武天皇白鳳二年四月大來皇女

日本紀

天照太神小侍でりと欲ほ故小泊瀬の齊宮小居

豊山神樂院長谷寺

泊瀬山小あり延喜式曰豊山寺縁起文曰豊山寺

孰筆へ

遠唐大使中納言從三位兼行左大辨春官大夫式部太輔菅原朝臣某と記せられ

則天

滿宮

上求菩提之山高下化衆生之谷深四神相應之靈場一天無雙之勝

地也玄武碑碑之嶺蘿苔之松緣徃々開四時之花以送齡貞於萬代之春青龍流沙之谷巒嵒之巖密間々交雲霧之色以運

響影於千季之秋朱雀泮澗之谷雲霧施降而誠嶠嶢之岡

觀似澤池掃溫勞炎々疫氣白虎禮儀之方更無逆賊之行君皇修義人怨自解廻政權儀物情相似定知此山者古仙術行

之跡衆妙吉祥之砌也

支當元正天皇養老小弟創文武天皇の御財德道上人

このねく造えをもひ入奉堂八棟化ア十一面觀世音の長丈六尺

二丈六尺

紀別根來まさりて正平一年秀吉公根來寺破却の後ま僧諸國小流域一智積院へ京都小建小沈坊へはに造立ばこれ講堂

と號をス舊長谷堂と號をもひて治瀬の川上瀧藏權現の社乃
やとくにあ人のほり一昆沙門ありと雷音寺をさりて小登ア附
御子の寶塔庵てすのすと三神の里袖川の瀧小止ア武内宿禰
三門アより上せまりて西北のとみ取をり一トリ舊名三神かわ
とちを治瀬豊山とすそれより前余歳を経て弘福寺の道明聖人
このれ石室小山下まれる黒の名をもりて治瀬まとせり二大武
天皇勅をもどりて彼聖人を精舍を造営され、今之十一面堂
聖武天皇の勅定ありて德道上人歎書曰
法道伝人諸人父ももとて大平七年
八月十六日小上棟一月十九年八月廿八日小供養せし教勅使を中納言
奈良麻呂道導師天皇の傍菩提陀預師ノ天傍正行基この財乃
瑞應本縁起小アタマアリ 徳道上人ハ播磨國故宝の都也人姓ハ辛亥田祁名ハ
米麻呂君 天武帝即位に於二月廿八日出家を年
廿八當寺驗記曰神龜三年
十二月晦日大房郡小住

卒尊観世音菩薩の德道上人の大師通明大徳のす小もさうひて

長谷の里小末山に靈木あり一人の老翁詔て曰傳聞繼祚天皇紀十
一年の洪水小近に國高崎郡ニ尾あふの谷より流楠木長サ
十余丈
志賀郡大津浦ニシキアリ七十石と經其後大和國高市郡八木里
小井門子とて女ありありゆあり佛像ハタハタと木のちよと
小いもすとある死せりけ里小千余年が経て圓圓葛下郡
に出雲ハタハタとある法智大備といあり十一面の像と洗アミクンと
同郡當麻里ハタハタとある大水も死せりハタハタ新小千余歳ハタハタ
江經天智天皇紀七年城上郡長谷里袖浦ハタハタ捨之ハタハタニ九年
を経て秋去ハタハタ止もありハタハタ斯毎小火災疫ハタハタとありハタハタヘ半
かとハタハタ德道上人歎書小
少るは德運老人のあくまく爲めハタハタかの靈生
里ハタハタとハタハタも佛大化ハタハタとハタハタ十年
経てある夜の亥ハタハタ東の峯ハタハタの燒ハタハタ今三燈の
かのまハタハタて造佛ハタハタとの告父家ハタハタて後ハタハタの如く生老年



菩公
神作
靈丈曰
坐灌藏
權現於泊瀨
河上其所勝
地而往古以未
諸天影向砌也
腸於彼社有天
人所造之昆沙門
天王古人未辨其名
喚爲天靈並神矣雷
取登空之時御千
寶塔流而泊此峯麓
三神里神泊瀨武内
徳表地榮也云下畧
徳表地榮也云下畧
徳表地榮也云下畧



二月小靈木ノ東の峯に引びきせん火繕ひく聖朝安穩藤氏
繁昌乃至法界平等す利益十一面の像とほりまゝ今大悲の弘誓
我願公感一念ひくこの靈木ちの間より佛とすしゆと常に在りてつ
元正天皇即位年七月房木ノ事との候ふこの寺にか入への事
全く汝君に伏ひの教と仰の思ひありたりや聖人言ふ佛法真髓
只君は小わらといひけ未伏え正帝小奉トマモテ聖武帝小奉尼
神龜元年二月一日宣下わりまゝ香稻三千束が當作の料小うひ
うともひやこさむの傳ざりて同六年四月八日ウムヒテ大和の内に
両國役ケ年の正税が無ひてより拂ふ本の加持あり日修行の道意
律師うり二日のあひ小十一面觀自在菩薩の像うりの巧匠誓文會
誓主歎うり太平五年八月十八日開眼供奉あり道師行基菩薩記頤
義選大德供奉の年號あり歎書凡二卷小神龜三年三月成就と云同廿八卷小神龜四年
登廊當山驗記小曰一條院の計時來去と日の社司小信近と云ひあり正預
中臣信清の男地眼病と云る瘡がヨリヒトヨリ大悲にのりヤクハセ
いりやどもスムレム金よりうねふとのく
建立せしとす

石土次うけく外小あくうる半方分ノ身一く足跡の穴ありそも像の脚足
小えりあくべぐや根を十面の像が並せり一この石小枝あり一枝是
うり一枝は麻伽陀國佛正覺の寶アマタコトノミツカツ一枝は補陀洛叉大悲の黒石うり
クろとそけ寶の石の左脇小龍穴あり天竺無能通アムニンノ縫とくや已上本縁起
大大意登廊當山驗記小曰一條院の計時來去と日の社司小信近と云ひあり正預
中臣信清の男地眼病と云る瘡がヨリヒトヨリ大悲にのりヤクハセ
いりやどもスムレム金よりうねふとのく

建立せしとす

長谷寺觀世音菩薩の住吉物アマガミモノがうるふ立派がいのりそあゆの伏えられ
玉づくふ右邊アマガミモノはどねふくらうりあひニ馬頭丈人の女とあり伏ひ
タクホトカそくふをかざりもわくドか一右邊丈人の野馬堂の丈とよみ
けいも江讀といへ書にのせてくわくとく

再興アマガミモノ朱雀院天慶七年正月九日炎上大悲の像が煙アマガミモノとうせよ多ひ一も頂上佛の
諸堂炎上觀音堂はくふ一後一條院万壽二年正月廿七日觀音堂の庇アマガミモノ乃ひ火
百練アマガミモノ扶日長曆二年三月廿七日長谷寺塔并僧房焼亡アマガミモノ本尊
驗記畧日後冷泉院永美七年八月廿八日炎上頂上佛の面被桐の枝葉の中をもせねひへ



百練抄曰永美七年八月廿五日燒亡觀音像爲灰燼

慈鎮錄曰永美七年十月造佛の附の供養が佛身中小納入り金杯深すと圓白丸大院
以下の佛奉加慶の御心皇后宮殿内親王家法勢大僧正すと高僧せりより三才喜
二年八月十一日供養あり儀師法勢大僧正明尊す咒願へ權少僧都圓縁讀師へ權少

傍部長守すり

百練抄曰天喜二年八月十一日供養長谷寺

靈驗曰堀川院喜保元年十一月十三日觀音堂經藏鐘樓塔舍燒失次日觀音堂宝座
前灰の中より光火放こと二時より人を随く炭灰を燃燒して頂上佛面柳

不焼して在り

慈鎮錄曰美德年中に觀音堂昇殿再建あり其外に朱色三十二三十金寺を

作る所小天承元年に供養あり

慈鎮錄曰順德院建保七年二月十五日火灾同布宇承久元年四月十七日より
五月廿日と小觀音の像成然を佛師より法眼は慶安阿彌陀仏と号すにけられ

灰炭の中にありて身の半面左右の掌ふと仏身中了の身すり

とり眉間のあ精の内より招提寺の舍利一粒

石の舍利之

興福寺畧年代記曰弘安三年長谷寺炎上貞治二年長谷寺供養明應四年十一
月十二日夜長谷寺燒亡同五年八月十五日長谷寺斬始

護法善神

脇小あり

靈驗記曰元慶五年二月大和國平市郡土師時躬

といひ乍らの子と共小當山に糸籠一ヶ其子俄小身後刻引
して稱せし文字アタマの底足馬頭夫人より下の後この中に極く

護法善神と云ひ其名と大唐國第四皇后君嶋女大神といひ今舍

白山権現當ふ靈驗記曰まの阿闍梨行田といひ加賀國白山
其驗みへ虎皮の出現す斯故其氣向と示ストカタ源氏也唐の后十種

實カタマニ

白山権現當ふ靈驗記曰まの阿闍梨行田といひ加賀國白山

小佐シロに甲斐國八代郡より落生つて男に権現シロ自らせひて

象洞カクドウ小鎮坐シテと神託あり又鏡花來りて阿闍梨の夜れ神の

はすれすり天保二年七月初日午の朝の未ヒサシそれなり當山小守

同月二日小社祭カミマツル其夜長谷の山カミマツル大守

ナカタミ三国竹記

蓮華谷カハゲ小蓮華院カハゲ復小角住カハゲ人迹あり勧めの附加にむとて外

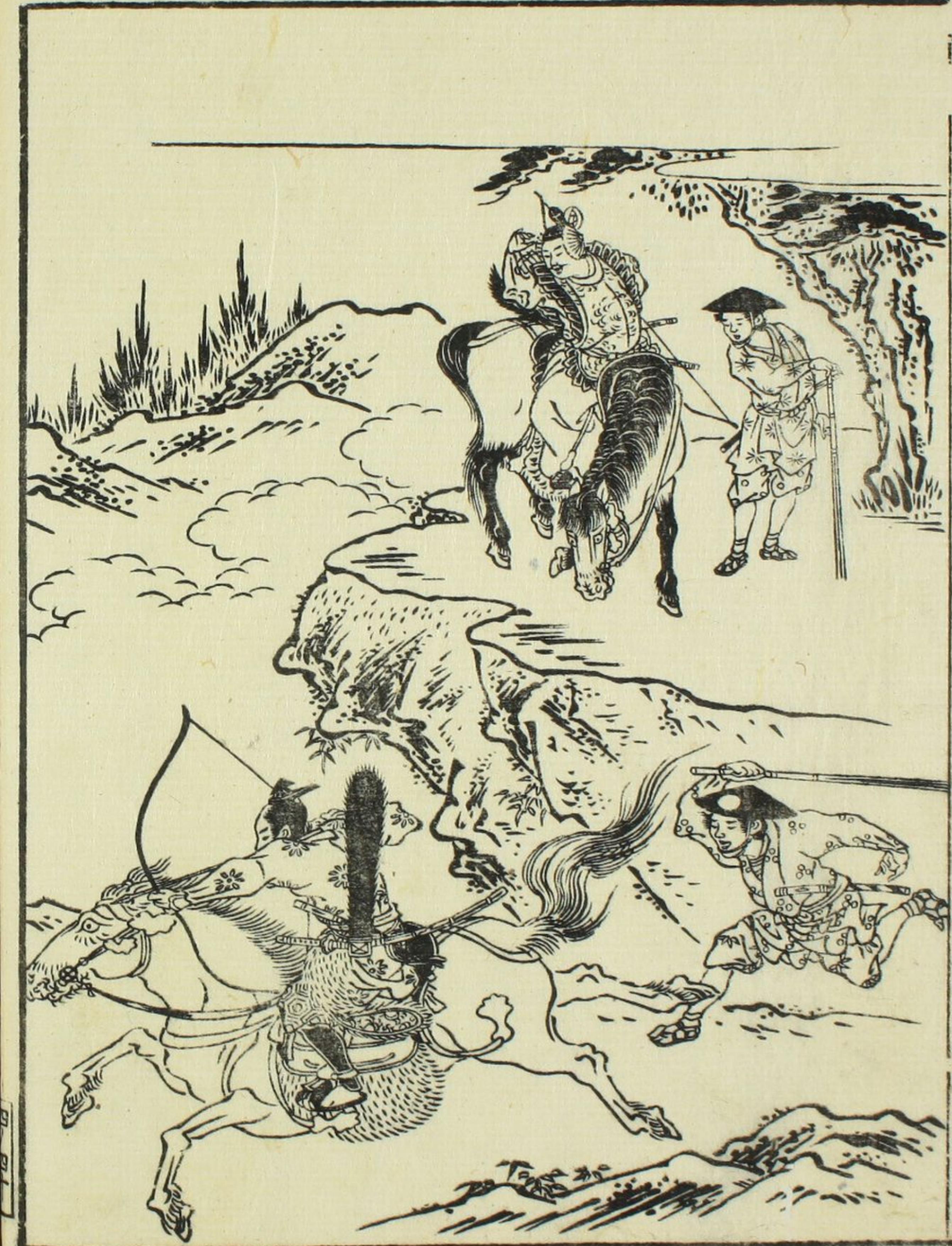
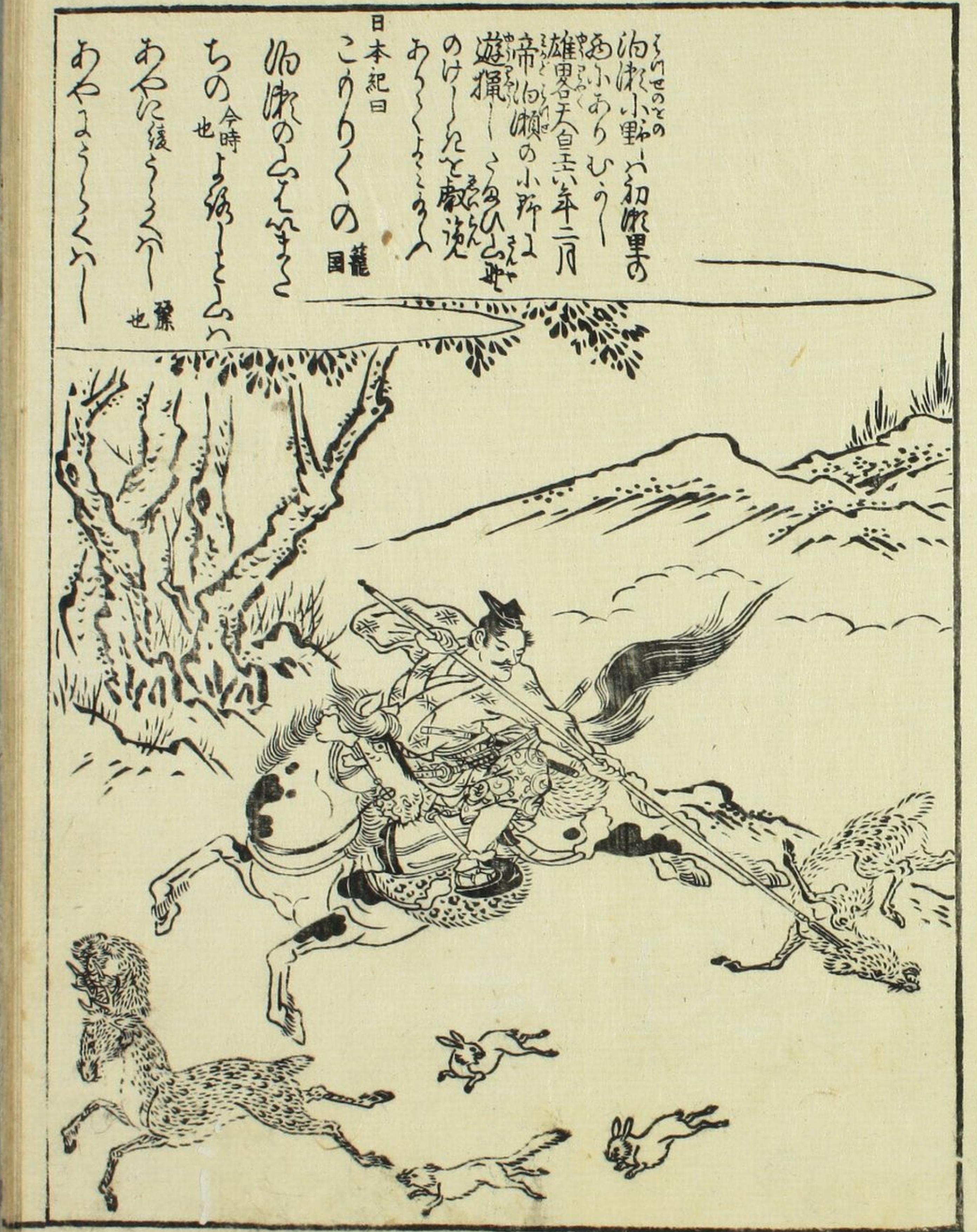
信カハゲ瑞意あり聖此天皇の勅カハゲ年毎の六月十八日に蓮華院供養カハゲ是

道明上人廟カハゲ驗記曰今三王

堂の内小あり安養院カハゲ北門カハゲか一むカハゲ仁上人カハゲ高

聲念仏カハゲ終

八十九文



藤井坊

今廢り見る一永享の頃より有都成院法隆清賢と名ふる長谷寺
長谷寺佛堂本尊

夕時雨の下に川を下落も冰く薄き冬のふれあ

別院

長勝寺

今廢り見る一驗証日宇多天皇勅願久福院の修造碑記

安平院セシテ大御堂の像三十三身の像公嘗送ありけふの二年の間の建立あり

貫之梅

長谷寺圓廊の中ほどあり紀貫之幼少のとき初瀬小住る伯父の玄井坊

淨高の方をく学文十四入紫少く都へ上り朝庭へ仕へそのうち

玄井坊へ來られ小幼少の時極盡し梅の花落物く斯定庵草と

淨真やされ梅と名せゆく時

古今

人へひこころもあくば古風の花とむうへは音小匂ひける貫之

貫之家集

花くともちよくえ香小咲りのと極くん人乃ふあくさん 淨真

與喜山大神

一名三燈萬とく當社の御鎮座の朱雀院御宇小初瀬里

神殿を主武麻呂とく一生不犯酒肉入卒が断一當寺に住一難り

公宗とく仏道を信する俗人ありたり大慶カタカ月十八日武麻呂額言

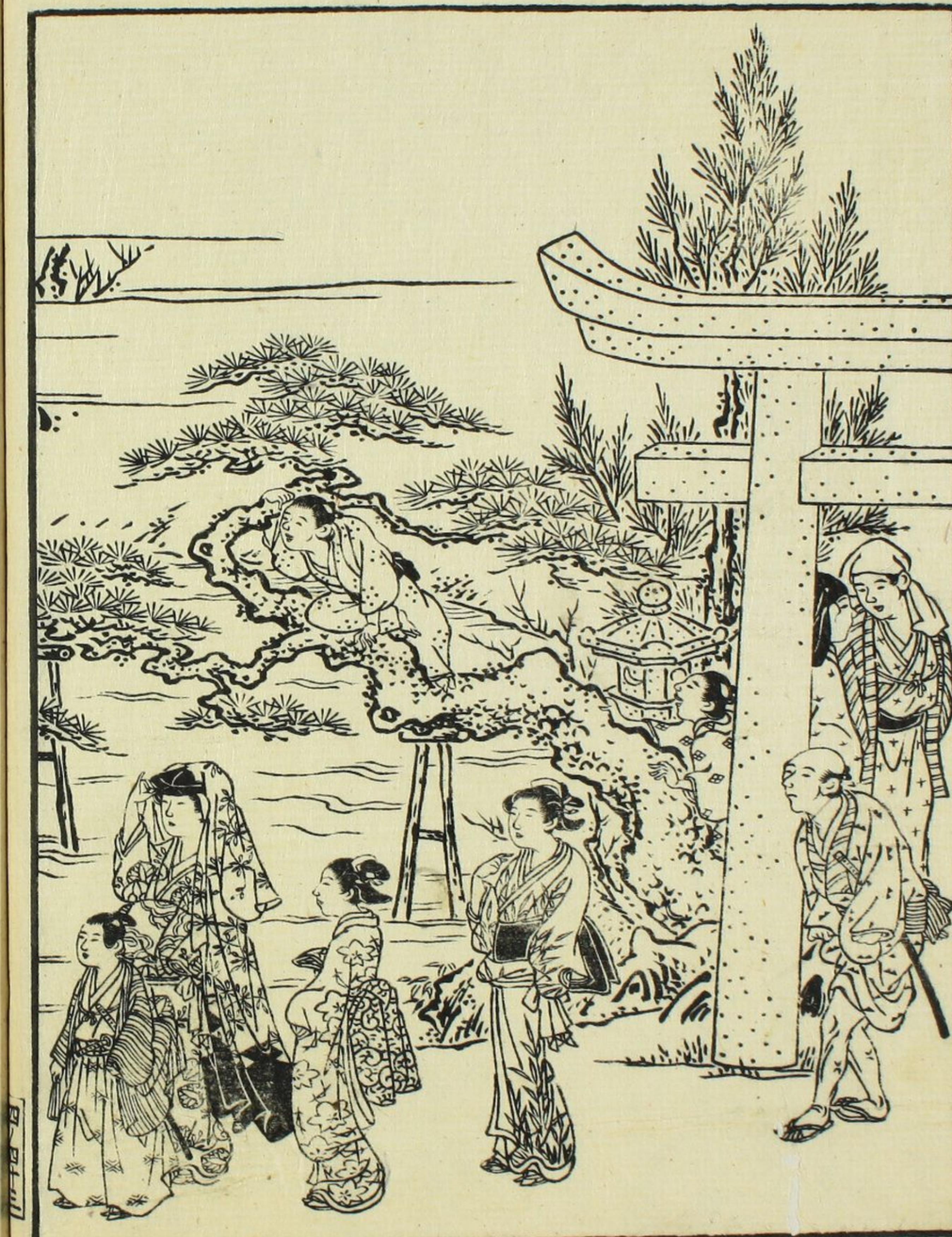
四四四

堂小風夜せずうゐど應三々に鷺幅子林夜一くる老翁忽然と飛と
我へ是大威靈の神えげとに住一くる大聖小値遇せんと空すと仰くレ
一うじ爰々そら小たりその月の廿九日を西金にうこかたの圓さる小
泊瀬川の下武麻呂家のもふ六十歳ぞうりの客俗石上に坐一居
うり足則差ふ見一人うり武麻呂恵わきとあすどとりあくまき
あなど一々うちそれより大後の相坂次登おさてかへに小宿とぞのやくせ
ゆく武麻呂道明上人の廟あつて追付神酒公さん勅先なり
斯く御堂に詣候ひ一ぐす志なし念诵ありたり夜半のよ爲え
より去くづりく客俗が處かつて遂小を晴く後老翁家も是
右大臣正三位大滿天神菅原の事すへけふ小居公志らく大聖よ
值遇一三摠の苦心免んと見て纏藏權現答のき曰うれむら
うりけつの地主く初瀬の川上に居せりは地佛法相應の地
鎮護國家の功ごく化度利生の瑞相金剛不動の寶座之今

より君小のびとさる永くおふれ地主とあり給へ一奉來し地を因蔓
陀羅峯をさへとすと所ふりとちうてふ大木のねありかの所アリ住
しゆべーとむられとどミ大滿天神昂ま小參一俄小雷神に現
一ねの本小至りあへ瀧藏權現の言に断惑修善與喜地よりとの伝
より與喜ひ天神と號け其ハトクハ與喜里と云一此神の所物
クテハ武麻呂志のびく守はるぞ一是洛陽北野天滿大自在
天神小く御座之初三年も神祠もさへと只松の本がりにて
社としタクニ布く神龕あらぐ天暦二年七月武麻呂寶殿
達く祠され通記
三国傳

毎年九月廿日ノリノリノ郷内の氏神トニ初ノ當ヒト朝向アリ一休
春ノリノリノ神輿大船の前アリ出一まる今ノ若門乃益ヨリシル武麻呂の
神体アリ次小登太船の四辻に轍ルキサム今乃與喜捨の仇アリ道明の廟アリ
神体アリ休社アリ居マリトノ一系院序宇勅願トクニ後承系齊小詔
仁王堂ノリノリノ天神向の内ハ有りシ掛坂の道ハあくとく
直進ハ神寺アリ今ノ登廊これアリ武麻呂家ハ今銚子町を委
フテハ公役故免の地也

夫神附體伏スリニシモカ人石ハ長谷の町の東廻北小アリス夫神小ニナリナリ
ノ石ハ二王門の内に今アリ
沟瀬川城宮城上郡うりとそ日本紀曰人皇廿六代武烈天皇元年沟瀬
の別城宮に即位アリとて
都伏山小室アリ
笠山新茅不とテ藤塙伴日笠山大和國と云云
万葉詩
雨零者將蓋跡念者笠乃山人爾莫令蓋霑者漬跡裳至て摩羅
いふも一役小角りひかねひ一靈山人皆無畏ニ藏來朝乃時天皇
と稱ニの中諸々く天降り太人所造の笠乃將來ありくは宗
はくをきのひ一トテ荒神の名ありけ笠靈寶一荒神の良辨
修正系笠の附荒神現形一トテ修正小板小室セシム其後弘法大师
の荒神ハ三座アリ
土祖神一坐澳津彦令一坐澳津姬神一坐舊事
古事記曰
左年神大和迦流義豆姫久妻一坐澳津麥與津姬
比二神ハ堵人寢神小いとひするアリ



栗原

引田村栗原瀧倉神社

栗原

栗原

比賣久波神社

城下郡唐院村比賣久波神社

比賣久波神社

比賣久波神社

神名帳出

栗原

栗原

栗原

富都神社

富本村小あり二宅原

富都神社

富都神社

常の風

栗原

栗原

栗原

遊部川

遊部川

遊部川

遊部川

類聚

よそだのくに竊のよべをすすむとからむを

よそだのくに

よそだのくに

廬戸宮

宮古黒田二村の間都杜小あり寺川

廬戸宮

廬戸宮

法樂寺

黒田村小ありむうへ伽藍魏

法樂寺

法樂寺

孝靈帝

孝靈天皇の陵地二聖德太子の開基

孝靈

孝靈

孝靈帝

孝靈天皇の陵地二聖德太子の開基

孝靈

孝靈

天皇の黒田の皇后のねづ

鏡作坐大照御龜神社

鏡作坐

鏡作

鏡作麻氣神社

小坂村小あり今

鏡作

鏡作

境作社二座麻氣神

今

境作社

境作社

辟端

金持石凝姥今八尾村小あり七筒村の氏神

辟端

辟端

辟人池

大和志日庵古村小あり今柳田池と號す長尾氏日唐人池高市郡小都せこせ

辟人池

辟人池

辟人池

右村皆祐之の東に池の底くろ入室の田地くろと辯人池のねづ

辟人池

辟人池

日本紀曰

辟人池ハ應神天皇七年九月高麗人百濟人新羅人等アリ作

辟人池

辟人池

かづろしひのゆの宮ハ背ハシうほくりそひてーー辟人乃池

益西

かづろしひの宮

かづろしひの宮

かづろしひの宮

かづろしひの宮

かづろしひの宮

かづろしひの宮

北坐朝霧黄幡比賣神社

法貴寺實相院と號す村小あり今大神と称す立高村の

北坐朝霧黄幡比賣神社

北坐朝霧黄幡比賣神社

北坐朝霧黃幡比賣神社

加藍魏今年々アリ頹廢アリ本堂一字夜

北坐朝霧黃幡比賣神社

北坐朝霧黃幡比賣神社

北坐朝霧黃幡比賣神社

如來より海國アリ來朝アリ

北坐朝霧黃幡比賣神社

北坐朝霧黃幡比賣神社

齊宮

法貴寺今小かくしと長谷川堂に守護アリ名ありと

齊宮

齊宮

服部神社

大王廟アリ村民アリ小糸神

服部神社

服部神社

夫本

おのづやふらり

大和川

里

おもづ
と
こと
しき



都陀宇
坂千瀬和志日景り天皇八十一年九月坂千瀬公造竹公堤の上に植たり也
阿刀村里坂千瀬村の異小河
相模家集
廉の事小弟の店も廢け一ノ瀬すうくの刀村乃里
倭恩智神社海知村小あり大和川城上郡より流く倭恩智社の西南流經
大和川橋を過く流東ぬ初瀬の方にあしりゆく。傍人多れ
村屋坐彌富都比賣神社藏堂村小あり今天王と称せ三十に村の氏神。神名帳出
大和川高市郡大領縣主許梅ノ神詔ありくろしきを器奉り。神號曰御靈劍
社の生雷神うり神武天皇の陵馬焉よ絆々のを器奉り。天皇の御代之神又幸櫻
又あの道より欲よせありうんばくみわづーとく則研よりは牛、公卷
モリトモかの陵公祠ニ神に位陵公駿りとくひより軍に利公済く不波
大和の室みかみ亡くうひくら
村屋神社二座藏堂村小あり十三村の氏神
鞆負御井續日本紀曰寶龜三年三月鞆負御井置酒を陪從五位
以上小乃ひ文曲水公賦を者
旅が場
岐多志太神社二座神名帳出至所不詳
久順久義神社神名帳出至所不詳
吹上嶺宇陀郡上萩原村の北に墨坂萩原村小あり
小野榛原萩原村小あり宇陀川一名萩原川東西二水下井足小
宇陀野宇陀の町より一里をうれ野萩原村あり。一里をうれ北
む。推古天皇十九年五月廿日小葉狩が荒田所小志。タノ曉公時
とりふく。後ノの源れやうり小集り。うれ供奉せられ。うる
諸侯ありひくのうねのえ心にあざめ冠が著て。うれ。公
こと四位の令公刑ひらと立位。豹尾六位。毛の尾派。うれ。公
貞觀二年十一月三日詔。源朝に融小大和國宇陀所公ちへ
うり狩遊び。三代
宇陀の跡れ林茅ふ志の元。麻妻小あらく就せ。母眞人
日の糸のかむく。おとくとく。小。毛の尾派。宇陀の御場
氷室。至所不詳。大和國小井余ヶ斯氷室あり。トウヤ氷室のねおは。日本
黄根。黄根。後考あぐ
都。すく涼しく。通す。宇陀の氷室。すくふ風



香木山赤嶺村がありと巔に龍王祠あり早の歲より雨が降る南の林より清水あり

猿田神祠

ふき村もあり土人

檜牧溪

木源石割山領より流る

赤人塚

圓塚といひ

石神殿

檜牧村のあより
十二社と林を

獄山

自明村の北小ありる岩を高

巖

中には巨巖あり俱利岩と云ふ

佛隆寺

鐘のみ新れ遠く故に古淺亡

室生山

室生村小あり安明寺峠愛宕嶽昆油門巖等支別あり又は窟護摩窟あり窟前壺井あり峠築あり巖峰築谷深一青巖路公遮る真に塵外乃

境涯といひつて室生溪

お源の稽峠より流るま

室生龍穴神社

室生村荷坂との氏神也

室生寺

室生村室生

式延喜

樫生

三代實徳

龍穴神宮寺

或へウ一ふすや面一ふとり

基

伽藍五宇立重塔十三級石塔小祠五基

慈尊院

行やもよての傍となり護摩堂修せられ巖崛も苔のみ

青天につゝなり巖石樹

ばまれて草木も無きとくごわと櫻麻にめぐら

川浪のまゝの岩れくぼくにまことまくば塘小みどろく落葉の秋の雨れぬか
かとあやゆくと橋がくまゆけの處のそびへんとありひづれがうちむり六
鷄足の志引けこけがくわかやとこそありしゆれる弘法大師の伝ひ
慈尊院行やもよての傍となり護摩堂修せられ巖崛も苔のみ

もして風をそ漏り竹と加藍覺

覺ふくと落花がげく室鐸響あり

鎮守龍穴祠

ハ秋慶室生

に御籠

年一千日松河橋

と

容儀體

佩宋繡うる女の顔

うか

と授てたゞよそとすげく慶ゑあやかと思ひふく誰

人小まどるそやま

明公代より山名代志とぞあくとひく女は是若女龍王うりあつ有

遂小代へらむとくいと様今くなぐく然どモ佛像受若へゝそばれとて

いとくうりうり慶山の女小今やも頬うもむほんせよすとくわくさん

やとせらうれどとさうりうり浦

くまえくあがもそれかどやと虚室のや

左のより小梅谷をふれの長さ丈余とくえの先あり

足より佛法擁護の神とくじ地小祠（モトモトモ）を

教書

味坂比賣命神社（モトミカヒメノミコト）荷坂村山糟溪（モリザクニシマツリ）至り曾爾川（モリカワ）小入

血原

上田口（アキハタガタ）神武天皇詔（アマテラスノミコトノミコトノシテ）て天孫足摺（アマツシタツクモ）足摺兔田縣に居り

召されも足摺（アマツクモ）仕禮足摺（アマツクモ）より小應（コウエイ）とてぬへ

攻（アムル）とていく戰ひ（アマツクモ）足摺（アマツクモ）足摺（アマツクモ）穴（アマツクモ）入（アマツクモ）

小應（コウエイ）令公變（アマツクモ）其尾公只（アマツクモ）やとて斬（アマツクモ）其血（アマツクモ）あうと

號（アマツクモ）免田の血原（アマツクモ）と（アマツクモ） 委ハ舊事紀日本紀

漆部鄉

今曾爾

宇多郡漆部里に風流の女あり花顏輝髪（アマツクモ）

一采千金の容（アマツクモ）あり足（アマツクモ）からちの部内漆部造磨（アマツクモ）の妻（アマツクモ）にて

七ふん産（アマツクモ）家困窮（アマツクモ）今公はく夜（アマツクモ）織（アマツクモ）に便（アマツクモ）一發（アマツクモ）綴（アマツクモ）

日々沐浴（アマツクモ）身衣潔（アマツクモ）綴（アマツクモ）と給（アマツクモ）日毎に耳（アマツクモ）生（アマツクモ）く菜草（アマツクモ）公（アマツクモ）より

掌（アマツクモ）に家と津（アマツクモ）糸竹公調（アマツクモ）端坐に唱（アマツクモ）合情恰（アマツクモ）大上の客の如（アマツクモ）

難波長柄豐崎宮（アマツクモ）孝德帝（アマツクモ）甲寅年秋の風流の性質（アマツクモ）神仏感應（アマツクモ）春

野菜公採小仙草（アマツクモ）と合（アマツクモ）えに飛去了誠小仙顏魯公碑（アマツクモ）小刀（アマツクモ）と

紫虛元君南岳夫人（アマツクモ）ともいひは色（アマツクモ） 日本靈異記

曾爾川

あ源勢別の郷大野と申すり名く曾爾谷諸村公經

桂井溪

二為桂井川小會一伊列に傍見ゆる

屢夙嶽

屢夙の如一因名

門僕神社

今井村小あり曾爾谷村の唯嶽今井村雄嶽葛村小あり一名此嶽

倭海記曰新小木松と字は松あり下に石あり土人云每祭（アマツクモ）一本（アマツクモ）一枝（アマツクモ）石へ安まう馬（アマツクモ）つうりとぞ駄つうる石とぞスレ村の古老云松も常盤木の植

らとす樹（アマツクモ）石と義經の馬（アマツクモ）つうだかへ一ヤ松へ伏り立む

新にやあへ一枝（アマツクモ）すりとぞ

いよのをすれらのさ松とどんとのゑにトツのそなる

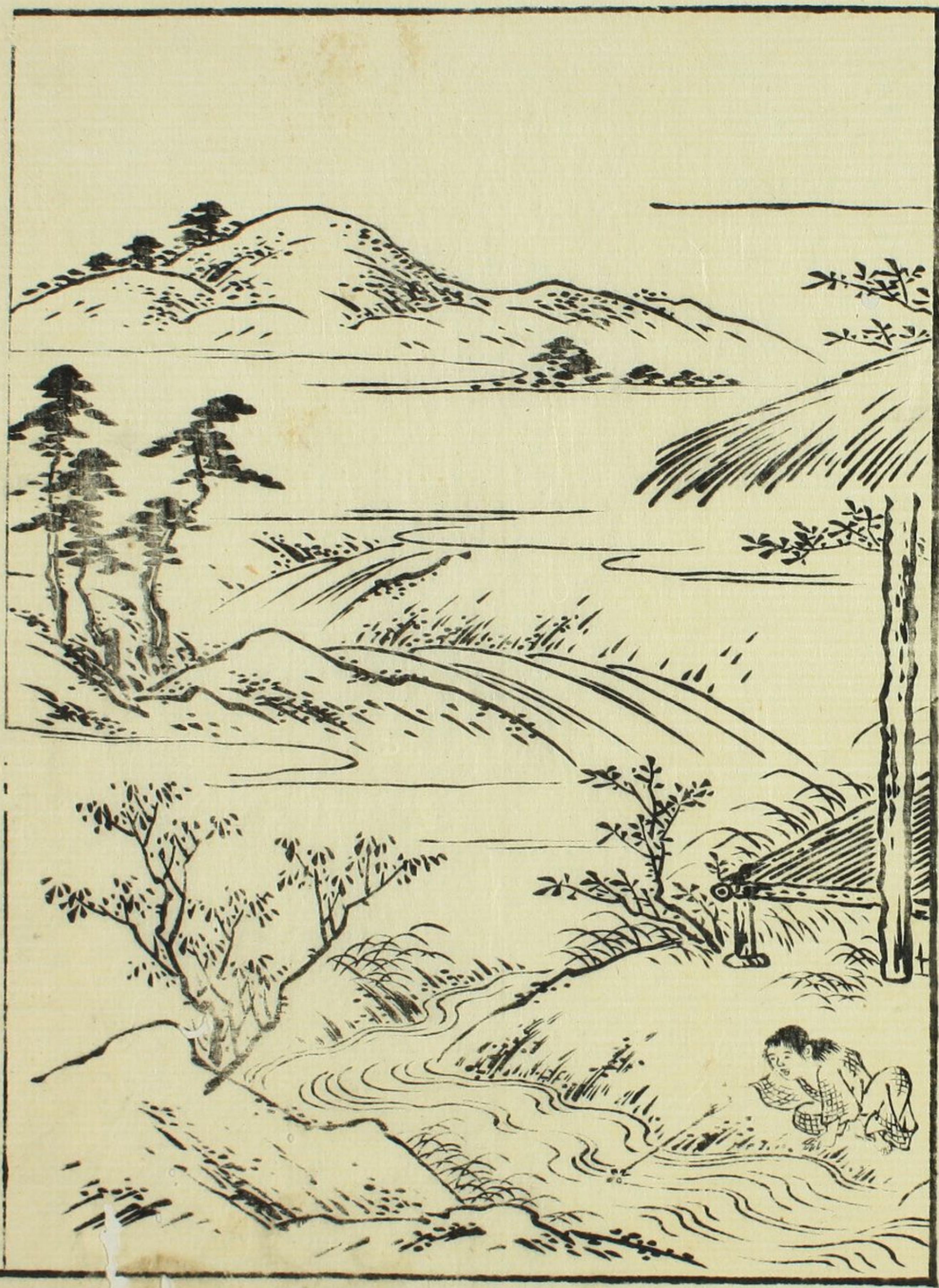
桃股川

あ源吉野郡見みの東より奥山川

倭海記曰新小木松と字は松あり下に石あり土人云每祭（アマツクモ）一本（アマツクモ）一枝（アマツクモ）石へ安まう馬（アマツクモ）つうりとぞ駄つうる石とぞスレ村の古老云松も常盤木の植

らとす樹（アマツクモ）石と義經の馬（アマツクモ）つうだかへ一ヤ松へ伏り立む

漆部仙女



八幡祠

古井郡材源有綱宅址

下芳材小あり土人曰常盤宅と称を文治二年六月

廉技平六

伊豆右衛門尉源有綱と合戰次有綱號地

原義經の女婿

小入り自殺足伊豆守仲綱の取

五口妻野

東郷村小あり

神御子羨牟順比命神社

右神村小あり今古前神と
称次神名豈ひ三代實錄出

日張

又鶴ふと書と宇賀志村小あり

鶴山紫雲庵中將指法如尼の開

籠の地すりそれより傳へく尼の住院

中將局

模佩右大公豐成の息女すりしが繼母の逸

捨しニ幽谷に籠つゝ今公系をの病小あそひひい父ナ富江よ

侍一ありそめに不意對面

故郷にうりうひぬ更に厭離

心尼

寺の心絶

改名法如尼とやほくに彦次

紫雲庵と号す

とやれ又改名法如尼とやほくに彦次

紫雲庵と号す

心尼

櫻實神社

佐倉村小あり

岡田小春命神社

小和田村小あり

神名帳出

西曼陀羅

妙法

心尼

實惟法師

法師

變法海

古市神祠

古市場村小あり邊隣

源吉川

本郡古市場村小入下品公行て東川に入

都賀那木神社

七十ヶ村の氏神

源吉川

本郡古市場村小入下品公行て東川に入

宇陀水分神社

山原村小あり

源吉川

本郡古市場村小入下品公行て東川に入

鳥神社

彦根村小あり

源吉川

本郡古市場村小入下品公行て東川に入

春日神祠

吉日村小あり

源吉川

本郡古市場村小入下品公行て東川に入

高倉山

上さ道村小あり

源吉川

本郡古市場村小入下品公行て東川に入

雲管

山醫王院大藏寺

大藏村小あり葉葉の栗葉と

源吉川

本郡

秋山城

ねぶの町東北小あり太文の役秋山右近國の城址

本所に神樂石あり

鶴山
中將姫



浪華書肆

心齋稿通北久太郎町

河内屋喜兵衛

夢卜輯要指南

洛東中西先生撰

全三冊

益安トの書類一
易かば今故書天文地理ム道鬼神仙鷹
御草本能能禽獸更傳の事あり
猶疑釋め異夢を引ひて解夢の下情ム多々の海をみず事
變化たりまた上甲子夢占あり時不遙く身體の諸怪乎の外
馬經の占候日新に爲す心氣の勞倦ふとく夏うの服革の際を
記皮の夢想の吉凶不隨て宿福未う故小而夢を察するを難く
を見晴らし夢想の吉凶を知る所は夢を察するを能く全豆也

大和名所圖會四之卷尾

四ノ五十三

阿紀神社巡簡村小あり今神戸明神と称を申祠を前あり隣村三十ヶ村の
氏神也日本紀神武天皇丹生川上が歩く大神也祇と云ふ
丹生神社城ねこの町の東小ありえ和中鐵田高長公封と元禄中に至り伊豆守信吾
竹川半坂村小あり
丹生神社雨師村小あり太和志白神武紀所謂葛田川の朝奈昂そより神武天皇
葛田の朝奈アサヒナ天下が平治ハラハラの所らあり當社神名帳出
舊記に記すと云ふ海妙見也
わ景石のふうと竹川の淵のみどりもぬくらむん
ノリの萬葉抄にて云ふと云ふと源氏也傳尔あり

